

九州共立大学

スポーツ学部

令和 3 年度

カリキュラムマップ

スポーツ学科 専門教育科目

学是 (学則第1条の2)				本学は、建学の精神「自律執行」、すなわち自らの良心に従い事に処し善を行うことを学是とし、この学是に則り、自ら立てた規範に従って、自己の判断と責任の下に行動できる人材を育成する。					
スポーツ学部の人材養成及び 教育研究上の目的等 (学則第3条の4)				スポーツ学部及びスポーツ学科は、学是「自律執行」の精神に基づき、幅広い教養を身につけ、かつ専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者を養成することを目的とする。					
卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー：DP)				スポーツ学科は、総合的な教養、スポーツ分野での多様な専門知識を身につけ、幅広い教養かつ専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者を養成することを目指す。この基本理念のもとに、以下を満たした学生に卒業を認定し、学位を授与する。 【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。 【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。 【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。					
教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー：CP)				スポーツ学科は、大学の教育課程編成・実施の方針(CP)に掲げる目標を達成するために、総合共通科目、専攻教育科目を体系的に編成し、科目を配置する。 教育内容、教育方法、教育評価については、以下のとおり方針を定める。 【教育内容】 1. キャリア教育科目を含めた総合共通科目、専門教育科目、自由選択科目を配置し、スポーツ総合コース、スポーツ教育コース、スポーツトレーナーコース、健康フィットネスクース、スポーツ政策コースの5コースで構成し、スポーツに関する専門的知識、技能を身につけるよう、系統的に科目を配置する。2. 専門教育科目は、「共通科目」「専攻コース科目」「専門演習科目」「スポーツ実技科目」で区分し、基礎的内容から応用・発展的内容まで、知識と技能を修得し、さらに両者を実践的に学修できるよう科目を配置する。スポーツに関わる理論知・実践知を身につけ、学年を重ねるにつれてそれらを応用する能力を高められるよう、必修科目と選択科目を段階的に配置する。3. さらに専門演習科目は、3年次より少人数クラスで展開され、4年次に卒業研究に取り組む。これらの科目を通して、国内外において活かせる「協調性」、「社会性」、「リーダーシップ」、「コミュニケーション能力」、「礼節とマナー」、「指導者能力」、「課題探求能力」、「課題解決能力」を育む。 【教育方法】 1. 主体的な学びの力を高めるためにアクティブラーニングを取り入れた教育方法を実施する。2. 演習・実験・実習においてはグループ学修を取り入れ、協調性を身につけるとともに、自己および他者の課題を発見し、解決する能力を育成する。3. 卒業研究は、身につけた知識・技能・論理的思考力・分析力を活用し、主体的に研究を行い、成果が実を結ぶように個別指導を実施する。 【教育評価】 1. 各授業は、シラバスに基づいた到達目標に対応した評価方法を導入し、厳格な成績評価によって単位を付与する。2. 4年間の学修成果は、卒業研究(必修)によって行い、総合的に評価する。					
スポーツ学部のカリキュラム						卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕			
科目区分	授業科目名	配当年次	開講学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。	【主体性・協働性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。	
共通科目	解剖生理学	1年生	前	解剖学と生理学は、人体の構造と機能を学ぶ学問であり、両者は統合させて理解する必要がある。効率の良いスポーツ活動を行うために、またスポーツ医学関連分野を学ぶために必要な知識を得ることを目標とし、基本的事項を重視しながら幅広い分野にわたり授業を展開する。ただしスポーツ学部であるので、神経系と筋骨格系に特に重きを置く。	単純に器官や器官系の名称だけでなく、人間を全体像としてみながら、各器官の働きについて相互関係を理解して説明できる。	◎	○		
共通科目	衛生学及び公衆衛生学	1年生	前	人間と環境(物理的・化学的・生物的・社会的)の相互反応の中に健康と疾病の問題を見だし、その中で解決を図ろうとする現代的な健康施策について、衛生的・公衆衛生的な見地から健康の保持・増進について講義する。併せて、疫学的研究方法論についても触れる。	衛生学・公衆衛生学に関わる基本理念や各領域の概要(健康管理の歴史や予防医学、保健統計、地域保健、国際保健、産業保健、環境保健等)、およびそれぞれのポイントを理解し、説明することができる。	◎	◎	○	
共通科目	スポーツ運動学(運動方法学を含む。)	1年生	前	スポーツにおける技術は、その課題を解決するための“理想的な運動”と考えることができ、練習を通して基本原則に叶ったものを習得することによってそれを達成することができる。多くのスポーツ種目において正しい運動(技術)を行うことが、目的に対する成果をあげるために重要である。本授業においては、スポーツ運動に対する認識を深めるために、スポーツ運動の本質や特性についての理論を統合し、指導現場における教育活動及び競技力向上に役立てるための理論を学習する。	1. スポーツ運動の構造を理解し、具体的な運動を挙げて分析することができる。2. スポーツ運動の特性を理解し、それぞれの特性の具体的な方法や動作を表現することができる。3. スポーツ運動の学習における段階とそれぞれの特徴を理解し説明できる。	◎	○	○	
共通科目	スポーツ指導論	1年生	前	本講義では、スポーツ指導およびコーチングのための基礎を学習する。指導やコーチングは、スポーツを理念の明確にすることから始まる。スポーツの概念・現状(様相)を十分理解し、その上で、指導法・コーチング法の基礎、さらには教育としてのスポーツなどを考究する。中学校・高等学校で保健体育授業および部活動(クラブ活動)の指導経験のある教員が、現場ですぐに用いることができる指導法や内容を教授します。	①スポーツに対する自論を明確に説明できる。②スポーツ指導とコーチングの概念や差異が把握できる。③スポーツ学習についての評価が説明できる。	◎	◎	○	

共通科目	スポーツ生理学	1年生	後	スポーツ運動は筋収縮の総体として発現し、身体諸器官の滑らかな調節と連携により遂行されている。本講義では、スポーツ運動の調節のための生理的变化やスポーツトレーニングの継続による中・長期的変化について学び、スポーツ運動時の生体の適応システムを総合的に理解する。	本講義で学習するスポーツ運動時の身体の生理的なはたらきや変化、トレーニング効果について記述して説明することが出来る。	◎	○	○
共通科目	スポーツバイオメカニクス	1年生	後	スポーツバイオメカニクスは力学、生理学、解剖学などの基礎知識を活用し、身体運動の仕組みを明らかにしようとする学問である。本講義では基礎となる諸学科の知識の上に身体運動の法則と歩く、走る、跳ぶ、投げる、打つ、泳ぐといった運動の基本的な仕組みを学び、利用することができるようにする。	スポーツバイオメカニクスの学問分野における専門用語を理解できること。身体運動に関わる基礎的な物理法則が理解できること。歩く、走る、跳ぶ、投げる、打つ、泳ぐといった運動の基本的な仕組みを説明できること。	◎	○	
共通科目	スポーツ社会学	1年生	後	スポーツ社会学では、教育、地域、経済、政治など様々な領域の中における人間関係(社会)をスポーツを通して学習する。スポーツの歴史や現場で起きているさまざまな現象について、社会学的立場から批判的、実証的に説明を行いながら課題と展望を明らかにする。	・スポーツの社会的役割、スポーツの社会的影響、社会から受ける影響などについて批判的に、論理的に考えることができる。・スポーツと社会の望ましいあり方を考えることができる。	◎	○	○
共通科目	スポーツ心理学	1年生	後	スポーツにおける心理的な問題について指導者の立場、学習者の立場両面から扱っていく。主な内容は、スポーツと動機づけ(やる気)、スポーツ技能の学習と指導、選手及び指導者のメンタルマネジメント、スポーツと発達心理、スポーツと心理臨床についてである。それらの内容を理解することによって、スポーツ実践と指導に役立つ心理学的知見を幅広く学習する。	1. スポーツにおける動機づけ理論について具体例をあげて説明ができる。2. スポーツ技能の学習について「運動学習理論」と結びつけて説明ができる。3. メンタルマネジメントにおける心理的技法の内容を具体例をあげて説明ができる。4. ジュニア期のスポーツ指導についてその意義と問題点について説明ができる。5. スポーツカウンセリングとメンタルトレーニングの違いについて説明ができる。	◎	○	
共通科目	スポーツ医学	2年生	前	スポーツ指導者が知っておくべきスポーツ医学の知識は、捻挫、打撲、骨折、脱臼、靱帯損傷などの整形外科的疾患、呼吸循環器系疾患、感染症など多岐に渡る。本科目ではこれら分野に関する概要を説明すると共に、スポーツ現場で求められるスポーツ指導者としての適切な対応について学習する。	①スポーツ指導者が知っておくべきスポーツ外傷・障害について説明することができる。②スポーツ指導者が知っておくべきスポーツに関連した内科的疾患について説明することができる。③スポーツ活動に関連して発生するスポーツ外傷・障害や内科的疾患に対する適切な対応を説明することができる。	◎	○	○
共通科目	スポーツ栄養学	2年生	後	健康を保持・増進し、疾病を予防あるいは治療する上で運動とともに食事の果たす役割は非常に大きい。本授業は栄養学の基礎知識を修得した後、スポーツ活動時の栄養補給・食事計画など実践的な知識を修得することを目標とする。運動時の水分補給に適した飲料、サプリメント等については、実物例を挙げながら授業を行う。	健康を保つための栄養補給を理解して実践できる。科学的根拠に基づき、競技特性やトレーニングスケジュールに適した栄養補給を実践できる。水分補給について正しい知識を得て、実践できる。	◎	○	○
共通科目	体力トレーニング論	3年生	前	本講義では、体力の向上を目指したトレーニングの基礎的知識を学ぶ。また、実際のトレーニング状況を想定し、トレーニングメニューを作成する上で必要な基礎的能力を養う。さらに、発育発達・加齢による身体機能の変化に合わせたトレーニング処方についても学ぶ。	体力を分類することが出来る。各種トレーニングの特徴や身体への適応について説明することが出来る。運動処方方法について説明することが出来る。年代の違いによるトレーニング方法や効果の違いを説明することが出来る。	◎	◎	◎
共通科目	発育発達老化論	3年生	後	スポーツ活動の広がりとは、スポーツ指導における対象者の多様化を伴っている。本講義は、この多様化した対象者に対してスポーツ・運動指導上の重要な点、優れたスポーツ指導者の資質として身につけなければならない内容について講義する。発育発達期では年齢段階に応じた身体諸機能の特性、スポーツ活動(運動)が子どもの心身に与える種々の影響について講義する。	○形態の発育について説明することができる。○筋の発育、筋力の発達について説明することができる。○パワーの発達について説明することができる。○発育期の身体的特徴とケガの関係について説明することができる。○中高年の体力の衰えを説明することができる。	◎	◎	◎
共通科目	スポーツの歴史と文化	4年生	後	現代社会における様々なスポーツ事象の課題・問題点を日本及び海外のスポーツの歴史と文化を知ることによって正しく導き出しこれらの課題解決の方法を模索できるようにすることを授業の目的とする。そのため、授業では、まず、近代スポーツの起源とその成立過程を知る。次に近代オリンピック、プロフェッショナルスポーツ、スポーツ用品産業、学校体育、スポーツ政策などの領域における歴史と特徴を学ぶ。	①体育・スポーツの文化的価値とは何かについて説明できる ②体育・スポーツの歴史と文化を具体的に説明できる ③体育・スポーツの歴史と文化に関する課題を見つけることができる	◎	○	○
共通科目	スポーツ統計学	3年生	前	統計学は小学校の算数以来、身近なところにある学問領域のひとつである。発育発達や公衆衛生等、単なる事象の認識だけでなく統計学を土台として現象理解を求められる分野は多い。競技やトレーニングにおいて、日々の結果(の集合体)がどういった特性を持っているのかを理解する上でも統計学を身につけておくことは大切となってくる。本講義では小・中・高で学んだ統計学を基にして、スポーツにおける統計がどういう意味をもたらすのかを理解し、それを活用できるようにすることを目的とする。	1)スポーツ・体育で取り扱うデータの統計処理ができる。2)目的に応じた統計グラフの選定ができる。3)Excelを利用して統計解析ができる。4)統計データの有意性を判断できる。	◎	○	
共通科目	レクリエーション論	4年生	前	「レクリエーションとは何か」という問いを起点に、レクリエーションの概念およびその現代における意義と課題について理解を図る。自分の人生においてどのようにレクリエーションと関わっていくかというライフサイクルプランの作成や、レクリエーション教室を企画・報告するなどの実習を交えつつ、「行なう」と「支える」の両面の立場から、レクリエーション活動の意味について説明する。	①レクリエーションが現代社会において、そして自分たちにとってどのような意味を持つのかを説明できる。②自分がこれからの人生でどのようにレクリエーション活動を行なっていくのかを考え、計画することができる。③レクリエーション支援者の立場と役割について理解し、自身が支援者となった場合の姿勢や心構えを述べる事ができる。	◎	◎	◎
共通科目	トレーニング実習	1年生	前・後	・各種トレーニングマシンやフリーウェイト(特に、ハイクリーン、デッドリフト、スクワット)について、正しい基本動作の修得および注意点の理解を高める。・各種エクササイズの主働筋を理解し、自分自身のトレーニング目標(筋量向上、筋力向上、筋持久力向上)に対して、各エクササイズの最大単上重量(1RM)に基づいたトレーニングプログラムを作成し、実施する。	・自身の目的に応じたトレーニングプログラムを作成できる。・各種トレーニングマシンを用いたエクササイズを正しい方法で行える。・各種フリーウェイトを正しいエクササイズ方法で行える。(特に、ハイクリーン、デッドリフト、スクワット)・各種エクササイズの注意点と主働筋を理解できる。	◎	○	◎
共通科目	体力測定評価法実習	1年生	前・後	効率的な体力の向上を目指すには生体からの正確な情報収集が不可欠である。本実習ではスポーツ活動を実施する上で特に必要と思われる体力及び健康生活に必要な体力の測定技法を修得することを目的とする。また得られたデータを統計的に処理し、体力を客観的に評価する方法を学ぶ。	①体力とはなにかを説明できる。②体力測定(機能・形態)を測定することの意義が説明できる。③各年代に応じた各種体力(機能測定・形態計測)を測定できる。④測定したデータを客観的な指標を用いて評価できる。	◎	○	○

共通科目	救急法実習	2年生	前・後	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、授業を展開する。また、医師による授業回がある。救急法の中でも特にスポーツ現場において発生する様々な医学的問題に焦点を当て、その対処法を学ぶ。具体的には外傷の処置としてのアイシングや固定法、創の種類やそれらの対処法、救命処置として心肺蘇生法とAEDの使用手法などについて実習する。また、スポーツ現場で見られる内科的疾患の救急処置などについての講義を受ける。	スポーツ現場において発生する様々な医学的問題に対して適切に評価、判断、処置を行い医療者に引き継ぐことができる。	◎	○	
共通科目	テーピング実習	3年生	後	本講義では、理学療法士の免許を持つ教員がスポーツ現場で多用されているテーピングの有効性について解説し、実際にテーピングの実習を行うことで、テーピング「する側」「される側」の両者について体感する。	・テーピングの有効性について理解することができる。・テーピングの弊害について理解を深めながら実習を行うことができる。	◎	○	○
共通科目	運動生理学実験	3年生	前	効率的な体力の向上を目指すには生体からの正確な情報収集が不可欠である。本実習では健康生活に必要な体力、およびスポーツ活動を実施する上で特に必要と思われる体力の測定技法を修得することを目的とする。また実験方法に関する留意点についても学び、より正確な実験データの収集を行う。	・安静および各種作業に各種生理的指標を測定することの意義が説明できる。・各種生理的指標の測定により体力レベルの評価ができる。・各種生理的指標の測定により運動強度の評価ができる。・実験で得られたデータを処理し、レポートにまとめることができる。	○	◎	○
共通科目	スポーツ動作解析法	3年生	前	身体運動における熟練や練習成果を客観的に分析することがスポーツ指導では重要である。本実習ではスポーツ動作の撮影を行い、身体各部の座標化を行ったのち、「動き」を定量化して、自らが設定したテーマに関する比較結果に関する発表を行うことができるようにする。	平面的な運動を対象とした二次元動作解析の原理を理解できる。ビデオ撮影、座標化、データ分析といった動作解析の手順を理解し、実践することができる。データ分析の結果を図表に示し、そのメカニズムを説明することができる。	○	◎	
共通科目	スポーツクラブのマネジメント	3年生	後	国のスポーツ政策として総合型地域スポーツクラブが謳われており、特に「マネジメント」が重視されている。スポーツクラブの政策はこれまでも進められていたが、マネジメントの概念がなかったこともあり、地域においてスポーツクラブが定着しているとは言いがたい。そこで現在では、マネジメントの概念を用いたクラブ経営や人材の養成も進められている。本授業では実務経験のある講師(商業スポーツクラブのマネジャー、スポーツNPO代表理事、総合型地域スポーツクラブアドバイザー経験者)により、クラブマネジメントの基礎と実践を学び、地域の視点に立ったスポーツのあり方を学習する。	クラブマネジメントには大きく2つの側面がありそれぞれについて学ぶ。・組織マネジメントとしての人事、予算、施設管理、広報、営業など・事業マネジメントとしてのスポーツプロダクト(スポーツプログラム、教室、イベント、企画など)・以上のことにより、総合型地域スポーツクラブのクラブマネジャーとして、地域スポーツのマネジメントができることを目指す	○	○	◎
共通科目	スポーツワークショップ(高齢社会の世代間交流)	2-4年生	前	少子高齢社会に突入した今日、人々が安定した生活を送るには「健康」をキーワードとして、世代間が交流を図り、互いに理解し助け合うことはその礎となります。そこで本科目においては、これまでの研究実績「高齢者のクオリティオブライフー高齢者の健康体操実践の成果」を生かし、北九州市で40年の活動実績がある団体「高齢社会をよくなる北九州女性の会」をコラボレーションを図り、本校学生の資質を最大限に生かして健康長寿社会の構築に向けて課題解決にあたります。尚講座は、学内での講義と高齢者の生活や健康問題などに直接触れる学外での実習から構成されます。	①少子高齢社会について学び、世代間の交流が重要であることを理解できる。②様々なシチュエーションにおいて、個別に健康課題について考えることができる。③運動普及や支援については常に積極的に受け止め、望ましい実践ができる。④社会貢献活動について理解を深め、主体的に取り組むことができる。⑤社会貢献活動についてのルールやマナーを身につけることができる。	○	◎	◎
共通科目	スポーツワークショップ(幼児・児童期の身体発達を探索)	2-4年生	前	スポーツ教育を学びスポーツを柱に教員を志すものにとって、人の発育発達について十分理解を深め、発達の側面から様々な手だてを構築することが望ましいと考えます。そこで本科目においては、心身の発達の基礎が形成される乳幼児～児童期までの身体発達の向上に向けた有効的な活動内容や具体的支援について、子どもの「主体性」「発達の側面」などをキーワードとした運動遊びの実践から学びます。その為に保育所・幼稚園・小学校にて「遊び」を実践し、さらに体力運動能力を測定してこの時期の身体発達についての理解を深めます。	①乳幼児期から児童期までの発育発達について学び、「遊び」の重要生を理解できる。②それぞれの発達段階に適した「運動遊び」を学び、個別に指導ができる。③体力・運動能力を測定し、結果を読みとり課題に向けて望ましい指導実践ができる。④社会貢献活動について理解を深め、主体的に取り組むことができる。⑤社会貢献活動についてのルールやマナーを身につけることができる。	◎	◎	◎
共通科目	キャリアアドバンス公務員養成Ⅰ	3年生	前	地方公共団体における政策および人事の担当の経験を活かし、公務員(行政職)をめざす学生を対象として、公務員試験での論文、グループ討議の対策を行います。	・行政の役割について説明することができる。・社会問題・時事問題について言葉や文章で説明することができる。・行政職員の職務内容について理解し、採用試験に活かすことができる。	○	◎	○
共通科目	キャリアアドバンス公務員養成Ⅱ	3年生	後	地方公共団体における政策および人事の担当の経験を活かし、公務員(行政職)をめざす学生を対象として、公務員試験の面接対策を行います。	・行政の役割について理解し、説明することができる。・行政職員の職務内容について理解し、採用試験に活かすことができる。	○	◎	○
共通科目	キャリアアドバンス教員養成Ⅰ	3年生	後	本科目は、将来保健体育科教員を志望する学生に対して、夏期および冬期等に教員採用試験の専門教養(保健体育)試験対策、実技試験対策、面接及び模擬授業等の対策、最新の教育事情の解説等を集中で行い、能力の向上を図ることを目的とする。	①自ら教員採用試験の情報を収集し、その対策を思考することができる。②積極的に学修したり、実技に取り組んだり、仲間と協力したりすることができる。③保健体育科教員の職業を理解し、「良い保体科教師」になろうとする姿勢を身に付ける。	◎	○	◎
共通科目	キャリアアドバンス健康指導者養成Ⅰ	3年生	後	この科目は、健康関連資格のうち、実技系統のGFI(REI,SEI,ADI,AQWL,AQDI,WEL)・健康運動実践指導者を目指す者に対して、スキルの向上を図るものである。各資格の実技試験対策、筆記試験対策を行うものである。なお、現予定ではGFI種目OWEIは別途対応であるが、希望者数だけで時間数を変動させることとする。担当者(樋口、藤崎)	有酸素運動を最適な説明とともに実践できる。レジスタンス運動を最適な説明とともに実践できる。ストレッチングを最適な説明とともに実践できる。すべての健康運動実践に生かせるだけの知識を有する。健康運動の基礎を最適な説明とともに実践できる。	◎	◎	○
専攻コース科目	スポーツ学概論	1年生	前	本講義ではパフォーマンス向上を目指した、スポーツ科学の基礎を学ぶ。スポーツとは何か、選手の立場、指導者の立場、観客の立場に立ち、各々具体的な内容を幅広くとりあげる。さらに、解剖学、体力学、スポーツ動作学の基礎的な知識をふまえ、将来スポーツに携わる人材として必要な知見を身につける。担当者(森・宗)	1.スポーツパフォーマンス向上に必要な原則が理解できる。2.スポーツ指導者、コーチとして必要な知識が身につく。3.スポーツの社会的役割および教育的役割が理解できる。	◎	◎	○
専攻コース科目	コーチング各論A	2年生	前	プロバスケットボール選手としての経験を活かし、授業を展開する。球技(ボールゲーム)の体系化とバスケットボールのコーチングにおける心得やチーム管理の方法について学習する。バスケットボールの特性、基本的な攻撃・防御の方法について学習し、その上で段階的に戦術や戦術行動の理解および指導方法の立案等の学習に発展させていく。また、様々な具体的なバスケットボールの戦術を検証する。	1. コーチの心得を理解する2. バスケットボールの基本的な技術・戦術や攻撃方法・防御方法を理解し、戦術の目的を分析することができる。3. バスケットボールのコーチングにおける基本的な事項(チームの管理・練習計画・練習方法等)を理解し、具体的な計画や方法を考えることができる。	◎	○	◎

専攻 コース 科目	コーチング各論A	2年生	前	サッカーのコーチに必要な要素を学習し、サッカーの試合で用いる多種の戦術や試合中に選手が行う運動量や運動強度に関する知識を習得する。さらに、試合の分析結果を基に、長期的・短期的な練習計画を作成し、実行するための授業を展開する。	1. コーチに必要な資質やコミュニケーションの方法を理解する2. サッカーの戦術的知識を習得する3. 長期、中期、短期の指導計画を作成することができる4. 試合の分析結果を基に目標を設定し、練習計画を作成することができる	◎	○	○
専攻 コース 科目	コーチング各論A	2年生	前	スポーツ学概論で学習した内容を基礎として、陸上競技の種目の特性に応じた具体的な指導方法やコーチングのあり方・考え方を学習する。また、これまでの研究で明らかにされてきた知見を概観し、基礎的な知識を身に付ける。その基礎的な知識をもとに、具体的なコーチング計画の立案方法を身に付けることを目指す。	①スポーツ科学で明らかにされた客観的事象を知識として身に付ける。②陸上競技の各種目の運動構造を理解し、説明することができる。③陸上競技の各種目のトレーニング手段や方法・注意点を理解し、指導計画を立案することができる。	◎	◎	○
専攻 コース 科目	コーチング各論A	2年生	前	ラグビーフットボールにおけるコーチング理論と実践を学習する。またラグビーフットボールの競技特性をこれまでの文献や分析から紐解いていく、発展的学習課題として基礎的な知識と理論を習得し、ゲームを分析し、具体的な指導法の立案へとつなげる。	1. ラグビーフットボールの指導方法について理解し、説明出来る。2. ラグビーフットボールの技術構造や指導方法に関する知識や理論に基づいて指導法を立案することが出来る。3. ラグビーフットボールにおけるゲームを分析し、トレーニング計画を作成することが出来る。	◎	◎	
専攻 コース 科目	コーチング各論B	2年生	後	・武道や武術に伝承されるコーチングについて学習する。・武道や武術などの稽古法をスポーツに活かすコーチングを学ぶ。・中学校・高等学校・大学で「武道(剣道)」のコーチング歴がある教員が、スポーツにも活かせる日本の伝統的な指導法(コーチング法)を教授します。	剣道・柔道・弓道・空手・合気道など、日本の伝統的な身体運動文化に伝承されているコーチング法を理解することができる。合理的身体動作法を知り、現代のコーチングに応用できる能力を身に付けることができる。	◎	◎	○
専攻 コース 科目	コーチング各論B	2年生	後	本講義では、水泳コーチ基礎理論・競泳競技・コーチの役割と安全管理の3本を柱にコーチングの重要な要素について講義し、トレーニングの意図と目的について検討する。また、水泳は「健康スポーツ」の実践としても行われることから、水泳・水中運動の側面からもアプローチする。	1. 水の特性や各泳法の技術特性を理解する。2. 選手のレベルに応じたトレーニング計画を作成することができる。3. 水泳コーチの役割と安全管理について説明することができる。	◎	◎	◎
専攻 コース 科目	コーチング各論B	2年生	後	本講義では、対象競技における基本的な攻撃と防御について学習し、教育的指導の課題や球技指導の問題点を考え、より良い指導を行うための目的、方法、評価について本質的に理解し、これらを基盤とした指導および指導計画の立案について学ぶ。更にルールやマナーの遵守、健康・安全への配慮を重視した指導法を学ぶ。(バレーボール)	①スポーツ科学を取り入れたコーチング知識を身に付けることができる。②戦術・戦略について解説できる。③コーチングを通じて人材育成の基礎を理解できる。④チームビルディングについての技能を活用できる。	◎	◎	◎
専攻 コース 科目	コーチング各論B	2年生	後	体操競技の指導者として有するべき専門性について学習する。体操競技には数多くの「技」があり、その多くを身に付けなければ競技会に出場することができない。故に、効率的に技を習得させるためのコーチング理論が必要となる。その概念となる、技の「系統性」と「段階性」について、体操競技の実践現場での知見に基づいて技の構造体系的立場から理解をすすめていく。	(1)技の構造体系的論を理解する。(2)体操競技のトレーニングの方法論を理解する。(3)技の系統性と段階性について例をあげて説明できる。	○	◎	
専攻 コース 科目	コーチング実習	3年生	前	コーチング各論で学んだコーチング方法について、実習形式でコーチングを体験する。また、コーチングの課題や自らの問題点を考え、よりよいコーチングのための工夫を試みる。実習は、学内外の競技団体において競技力向上を目指した活動を定期的に実施し、専門的な指導者(監督・コーチ)が配置している団体で行うこととする。	①各競技特性を理解したコーチングの実践を理解する。②競技力向上に向けたコーチングの計画的な方法を理解する。③コーチングの課題や問題点を知り、解決法を自ら考えることができる。	◎	◎	◎
専攻 コース 科目	コーチングシステム論	2年生	後	スポーツにおけるコーチとは、プレーヤー自身が「なりたい」と思う自分に近づくために、その活動をサポートする存在である。また近年では、コーチの社会人としての資質が求められてもいる。その構造化(システム化)には必要なこともあり、その構築について学ぶ。コミュニケーション、モチベーション、積極的傾聴など、コーチング理論の基礎から学生自身のスポーツ種目に応用した学習を行う。	1. コーチングのシステム化を理解し、自身の種目に応用できる 2. 人間教育としてのコーチングの重要性を理解する 3. コーチ自身が社会の模範であることを理解する	○	◎	○
専攻 コース 科目	トレーニング計画論	2年生	前	競技力を向上させるためには、科学的根拠に基づいたトレーニングを行うことが最も効果的である。そこで本講義では、スポーツ指導者にとって不可欠な知識であるスポーツトレーニング理論を体系的に学ぶことを主目的とする。またトレーニングの基礎知識を習得し、そのトレーニングがもたらす効果を理解し、目的に応じたトレーニング方法を選択、処方出来るようになる。	1. スポーツトレーニングの医科学的基礎知識について理解し説明出来るようになる。2. スポーツトレーニングの理論や方法論を理解し説明出来るようになる。	◎	○	
専攻 コース 科目	スポーツ戦術論	4年生	前	プロバスケットボール選手としての経験を活かし、授業を展開する。スポーツの戦術は、試合で勝利するために個人やチームの持つ能力を合理的に活用し、最高のパフォーマンスを発揮するための方法である。スポーツにおける戦術行動の意義と重要性を認識するために様々なスポーツ種目に共通する指導上の手がかりを学習する。そして、技術や戦術の分析能力、科学的知見、経験等がスポーツ戦術に必要であることを理解し、競技力向上のための技術と戦術の関わりについて学習する。	1. スポーツにおける戦術・戦術行動の意義や重要性を理解し、様々な戦術を分析することができる。2. 戦術行動の前提条件やスポーツ戦術に必要な科学的知見・分析能力・経験等を理解した上で、戦術プランを立案することができる。	○	○	◎
専攻 コース 科目	スポーツ方法論	3年生	前	スポーツの競技力向上を念頭に置いたコーチング学の立場から様々なスポーツ種目を対象に方法論を学習する。そのために各種目の競技力構造を理解した上で、競技力養成のための技術トレーニング、戦術トレーニング、体力トレーニング、心的・知的トレーニングの方法について理解を深めていく。更にそれらの方法論に則ったトレーニング計画や試合準備について学習する。担当者(俵、後藤)	1. スポーツの特性を理解し、説明・記述が出来るようになる。2. スポーツ指導方法の理論的な発展について説明できるようになる。3. 各種スポーツの競技力構造について類型化できるようになる。4. スポーツ競技力養成のための方法論について様々な視点から説明できるようになる。	◎	◎	○
専攻 コース 科目	レジスタンストレーニング実習	2年生	前	トレーニング実習(1年)の内容を踏まえ、フリーウエイト、トレーニングマシンを用いたトレーニングの方法を学ぶ。特にクリーン&ジャーク、スナッチの基本動作を習得し、より高負荷でのリフティングを行えるようにする。また、トレーニングプログラムの作成、それに沿ったトレーニングの実施と効果の評価という一連の過程を経験し、その実施法を習得することを旨とする。	①トレーニングプログラムの作成法を理解することができる。②トレーニング効果の評価法を理解することができる。③ クリーン&ジャーク、スナッチの基本フォームを習得し、一定の重量を挙上することができる。	◎		○

専攻 コース 科目	メンタルトレーニング演習	2年生	後	メンタルトレーニング(MT)は、自己の能力を最大限に発揮するために、運動遂行時の精神状態を最適にコントロールするための心理的技法である。具体的にはリラクセーション技法、イメージの活用、目標設定技法などがあげられる。本授業ではそれらの技法を実際に体験し、自らが体得するとともに、指導場面にも活かしていけることも目指す。またMTの可能性と限界、スポーツカウンセリングとの関連についても触れる。	1. 各種の心理的技法の内容について具体例をあげて説明ができる。2. 自身の競技遂行におけるメンタル面の課題を分析し、学習した心理的技法を日常のトレーニングに活用できる。3. 指導的立場に立ったときのことを想定し、チームあるいは個人選手を対象としたメンタルトレーニングプログラムを立案できる。4. メンタルトレーニングとスポーツカウンセリングの関係性について説明ができる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	スポーツパフォーマンス測定実習	3年生	前	スポーツパフォーマンスの向上を目指すトレーニングの現場では、目標を決め、実行し、それを評価することによってトレーニング効果を明確にすることが求められる。トレーニング科学の発達により、評価すること、すなわち様々な身体、体力、技能要素の測定データを収集することが、現場レベルで容易に行なうことが可能になった。本実習では、トレーニング現場で役立つスポーツパフォーマンスの測定法・評価法を学び、現場と研究室の橋渡しをできる力を身につける。	1)授業で行なった測定法を実際に実施することが出来る。2)測定法について記述して説明できる。3)測定データを解析し評価できる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	スポーツゲーム分析演習	3年生	後	競技スポーツにおける客観的な指標によって競技力やパフォーマンスを評価する必要性が高まっている。本科目においては「ボールゲーム」を対象としてゲーム観察による客観的なデータ収集とその分析方法を演習し、ゲーム分析の意義について理解を深める。授業においては、ゲーム映像の活用と表計算ソフトの利用によって多くのデータを収集した上で、それらを統計的に分析し、結果を競技種目の特性や現状を考慮した解釈による評価方法を学習する。	①スポーツにおける「ゲーム分析」の意義を理解している②スポーツにおける「ゲーム分析」の基本的な方法を理解している③分析した情報を解釈し、客観的に伝えることができる		◎	○
専攻 コース 科目	スポーツ栄養指導演習	4年生	後	スポーツ選手は常に栄養士・管理栄養士から適切な栄養指導が受けれるとは限らない。スポーツ指導者やトレーナーは選手に対して栄養指導や栄養アドバイスができる能力も求められる場合がある。本演習は栄養指導向上のため、実践演習に重きを置くが、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成カリキュラムのテキストに沿った内容である。栄養指導や保健指導の経験を活かした授業を展開する。	スポーツ栄養学を理解し、スポーツ現場で個人または集団に実践的な栄養サポートを行う際に必要な知識と技法を修得することによって、スポーツ選手への栄養指導や助言ができる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	地域スポーツ論	3年生	前	これまで日本のスポーツは職域や学域によって発展してきたとされる。しかし、その形態は限界を向かえつつあり、地域へのシフトが行政的にも計画されている。その政策の一つが総合型地域スポーツクラブであり、地域住民を主体とした形式、非営利での実施をベースにしたものである。授業は担当教員自身がスポーツNPO法人の代表理事(20年)と日本スポーツ協会が推進する総合型地域スポーツクラブのクラブアドバイザーを福岡県体育協会に従事(15年)した経験を活かし、展開する。	1. スポーツの歴史的な背景を学び、我が国のスポーツ環境や地域スポーツを理解する 2. 地域スポーツの未来について創造できるようになる 3. 生涯スポーツについてマネジメントする能力を身につける	○	◎	○
専攻 コース 科目	障害者とスポーツ	3年生	後	障がいの有無にかかわらず、全ての方にスポーツ指導ができる人材を養成する。本授業では、障がい者への運動指導を実践してきた教員が障がいの病態と特性を説明し、障がい者が親しんでいるスポーツ種目について具体例をあげながら解説する。また、障がい者のスポーツ大会やスポーツに使用する補装具についても説明する。	障がいを理解し、障がい者が実施しているスポーツを学ぶことで、障がい者と共にスポーツを楽しむことができる。また、障がいの特性に応じてスポーツを創造できるようになる。	◎	○	
専攻 コース 科目	スポーツ教育概論	1年生	後	体育・スポーツ学は人の健康で文化的な生活の礎となる身体の育成を目指した学問領域であり、スポーツ教育は加えて「人間形成」の重要な役割を担う分野です。一方21世紀の今日様々な環境の変化は我々の「身体活動」や「関係性の構築」などに異変をもたらし、青少年の健やかな心身の育成に多大な課題を生じています。さらに一昨年からコロナ禍は、今後我々の生活形態を変えることも考えられます。このような変化の折、本講座では長年の発育発達研究から発達段階におけるそれぞれの「発達の特性」に軸足を置き、不変である「身体教育」について様々な観点のアプローチを通して、今日のスポーツ教育の使命や今後の展開について構築します。	保健体育教師やスポーツ指導者としての豊かな感性や専門性を学修するとともに、現場に通じる積極的な姿勢を身につける為、以下の課題を目標とします。①スポーツの捉え方、関わり方等を深く説明することができる。②「人間形成」の一翼として、スポーツ教育の考え方を述べる事ができる。③スポーツを取り巻く諸課題について、説明し自分の考え方を述べる事ができる。④保健体育教師・スポーツ指導者としての考え方を理解し、実践に向けての行動ができる。	◎	◎	◎
専攻 コース 科目	学校体育のマネジメント	3年生	前	教育現場における運動学習を進める上で教師の教授技術は重要である。中でも実際の運動活動の時間(経験)を保障する上でマネジメント技術は最も重要で、準備・後片付けのみならず、授業中の説明や安全管理、学習者の学習意欲促進のための演出(教材、教具、用具、器具等)のため、どのように計画すれば良いのかを理解する。	1 運動学習を進める上で教師の役割を具体的に説明することができる。2 運動学習の指導におけるマネジメント理論・方法を説明することができる。3 マネジメントの変化と学習者の獲得された運動学習の成果との関係を説明することができる。	◎	◎	◎
専攻 コース 科目	学校体育指導演習	3年生	前	本演習では、体育授業を行うための単元構造図、学習指導案の作成、それらに基づいた模擬授業の実践を行う。第1回目の模擬授業では特に、マネジメント、学習規律肯定的人間関係、情緒的開放といった体育授業の基礎的条件に着目する。第2回目の模擬授業では特に、明確な学習目標、興味を引く内容、教材、場づくり、教師の指導性といった内容的条件に着目する。また、模擬授業の分析、省察を行い、学習指導案の修正、改善を図り、よりよい授業実践につなげていく。	学習指導要領の目標及び内容を説明でき、単元計画及び学習指導案に活かすことができる【知識・技能】、運動技術の構造や習得過程について理解し、教材づくりに活用できる【思考力・判断力・表現力】、教材研究に主体的に取り組むとともに、他者と協働して授業の分析、評価診断、省察を行うことができる【主体性・協働性】。	◎	◎	◎
専攻 コース 科目	器械運動指導法(体づくり運動を含む。)	2年生	前	器械運動の各種目(マット運動、跳び箱運動、鉄棒運動、平均台運動)には多くの技が存在するが、それらの技は運動技術的に類縁性を有する技群にまとめることができる。授業においては、体操競技及び、器械運動の指導経験を有する教員が、それぞれの技の基本技術や系統性について実務経験を踏まえて授業を行い、これらを理解することで効果的に技を習得していけることを理解する。また、補助の方法や練習の場づくりに関する知識を身につけ、指導における実践的な能力を高める。なお、本授業は講義と実技を合わせて行う。	1. 各器械種目の基本技ができるようになる。2. それぞれの技の基本技術を指導できるようになる。3. 補助法について理解し、適切に実践できるようになる。4. 練習の場づくりを工夫することができるようになる。5. 学習段階におけるつまづきとその対処法について理解する。	◎		○

専攻 コース 科目	陸上競技指導法	2年生	後	学習指導要領解説にある中学校・高等学校の各種目の技能についての確認を行い、種目の基礎知識や種目の特性に合った具体的な指導方法を学習させることで陸上競技の指導力向上を目指す。また、講義で学習した指導方法を実践し、お互いに技能の習得を目指すことで、指導法の実践力向上を目指す。	① 陸上競技の運動を理解し、説明・記述・実演できる② 陸上競技の指導計画(指導案)の作成ができる③ 立案した指導計画(指導案)を基に、実技指導ができる④ 指導方法等の学習した知識を生かして、互いの競技力を向上させることができる	◎	◎	○
専攻 コース 科目	水泳指導法	3年生	前	○本授業では特に、小学校から高等学校までの「学校水泳」における水泳指導法を身に付けた教員の養成を目指します。これまでの保健体育科教諭(専門種目:水球・競泳)としての実務経験を活かした授業を展開します。○初心者を対象にした「水遊び」や初級者を対象とした「水慣れ・浮く・進む」から、中級者・上級者の各種泳法(4泳法)までの基本的な指導法を理解させるとともに、学習者のレベルに応じた水泳指導の工夫をすることができる指導力の育成を目指します。○授業における具体的な課題等を取り上げ、ペアやグループによる学び合いや模擬授業等のアクティブ・ラーニングの学習法を取り入れ、学生の主体的な学びを推進します。	○児童生徒の水中での自己保全能力(水中での生きる力)、水辺での危険回避や安全確保の能力を育む指導ができる。○小学生・中学生・高校生を対象に、学習者の技能(泳力)に応じた適切な水泳の指導ができる。○児童生徒が、主体的・対話的に水泳の授業に臨む意欲や態度の育成に繋がる水泳の指導ができる。○水泳指導時における安全・安心の確保ができる。○学習指導計画(指導案)を的確に作成でき、それを基に計画的・系統的に実技指導をすることができる。○目標に準拠した評価をすることができる。	◎	◎	◎
専攻 コース 科目	球技指導法A	2年生	後	プロバスケットボール選手としての経験を活かし、授業を展開する。「球技」の特性および基本的な攻撃・防御の方法について学習し、ゴール型球技を題材にその基本的な技術の教授法を身につける。段階的に戦術や戦術行動の理解および指導方法の立案等の学習に発展させる。スポーツ教育の一環としての球技において、一生懸命取り組むこと、チーム競技を理解すること、ルールやマナーの遵守、健康・安全への配慮も重視される。本科目では、指導の目的、内容、方法、評価について本質的に理解し、これらを意識した指導および指導計画の立案について学ぶ。対象種目は「バスケットボール」である。	1. 球技運動を理解し、説明・記述・実演できるようになる。2. 球技の指導計画(指導案)の作成ができるようになる。3. 立案した指導計画(指導案)を基に、実技指導ができるようになる。	◎	○	◎
専攻 コース 科目	球技指導法A	2年生	後	「球技」の特性および基本的な攻撃・防御の方法について学習し、ゴール型球技を題材にその基本的な技術の習得を図る。また段階的に戦術や戦術行動の理解および指導方法の立案等の学習に発展させていく。スポーツ教育の一環としての球技において、一生懸命取り組むこと、チーム競技を理解すること、ルールやマナーの遵守、健康・安全への配慮も重視される。本科目では、サッカーに焦点を当て、現場での指導方法を重点的に学ぶ。	1. 球技運動を理解し、説明・実演できるようになる。2. サッカーの基礎技術を理解する。3. サッカーの基礎的な守備の方法を理解する。4. サッカーの基礎技術や守備に関する実技指導ができるようになる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	球技指導法A	2年生	後	「球技」の特性および基本的な攻撃・防御の方法について学習し、ゴール型球技を題材にその基本的な技術の教授法を身につける。段階的に戦術や戦術行動の理解および指導方法の立案等の学習に発展させる。スポーツ教育の一環としての球技において、一生懸命取り組むこと、チーム競技を理解すること、ルールやマナーの遵守、健康・安全への配慮も重視される。本科目では、指導の目的、内容、方法、評価について本質的に理解し、これらを意識した指導および指導計画の立案について学ぶ。対象種目は「ハンドボール」である。	1.球技運動を理解し、説明・記述・実演できるようになる。2.球技の指導計画(指導案)の作成ができるようになる。3.ゴール型球技について、学習指導要領に基づいた指導内容を理解する。	◎	◎	◎
専攻 コース 科目	球技指導法B	3年生	後	球技の特性及び基本的な攻撃・防御の方法について学習し、ゴール型球技を題材にその基本的な技術の教授法を身に付ける。段階的に戦術や戦術行動の理解及び指導方法の立案等の学習に発展させる。スポーツ教育の一環としての球技において、一生懸命取り組むこと、チーム競技を理解すること、ルールやマナーの遵守、健康・安全への配慮も重視される。本科目では、指導の目的、内容、方法、評価について本質的に理解し、これらを意識した指導及び指導計画の立案について学ぶ。対象種目は「ラグビー」である。	1. 球技運動を理解し、説明・記述・実演が出来るようになる。2. 球技の指導計画(指導案)の作成が出来るようになる。3. 立案した指導計画(指導案)を基に、ラグビーの実技指導が出来るようになる。	◎	○	◎
専攻 コース 科目	球技指導法B	3年生	後	対象競技の特性および基本的な攻撃・防御の方法について学習し、基本的な技術の習得の実際を体験する。また、教育的指導の課題や球技指導の問題点を考え、より良い指導を行うための工夫を試みる。本講義では、指導の目的、内容、方法、評価について本質的に理解し、これらを意識した指導および指導計画の立案について学ぶ。更に、ルールやマナーの遵守、健康・安全への配慮も重視した指導法を学ぶ。(バレーボール)	①球技運動を理解し、説明・記述・実演ができるようになる。②球技の指導計画(指導案)の作成ができるようになる。③立案した指導計画(指導案)を基に、実技指導ができるようになる。	◎	◎	◎
専攻 コース 科目	球技指導法B	3年生	後	対象競技の特性および基本的な攻撃・防御の方法について学習し、基本的な技術の習得の実際を体験する。また、教育的指導の課題や球技指導の問題点を考え、よりよい指導を行うための工夫を試みる。本講義では、指導の目的、内容、方法、評価について本質的に理解し、これらを意識した指導および指導計画の立案について学ぶ。また、ルールやマナーの遵守、健康・安全への配慮も重視した指導法を学ぶ。教員としての経験を活かし、授業を展開する。	①球技(バドミントン)運動を理解し、説明・記述・実演ができるようになる。②球技(バドミントン)の指導計画(指導案)の作成ができるようになる。③立案した指導計画(指導案)を基に、実技指導ができるようになる。	◎		
専攻 コース 科目	ダンス指導法	3年生	前	「ダンス」は、学習指導要領に示されている運動領域の一つであり、中学校・高等学校において扱う領域として位置づけられている。本科目では、様々なダンス(現代的なリズム、フォークダンス、創作ダンス)の体験を通して、基礎的な技術を習得し、指導する上で必要となる身体表現の基礎を身に付けることを目的とする。具体的には、ダンス理論や基礎的なダンスの動き、ダンス指導の際の留意点などを実技を通して学修する。	①学習指導要領の領域「ダンス」の内容を理解する。②ダンスの基礎技術、指導法、発表技法について理解する。また、仲間と協力して作品創作に取り組むことができる。③テーマに即した身体表現・作品創作・発表ができるようになる。④ダンスを通して、スポーツ文化全体の支援者としての実践的・教育的能力を身につける。	◎	○	◎

専攻 コース 科目	武道指導法	3年生	後	学校体育における武道領域の授業展開において必要な単元構想力、授業設計力、教材開発力、実践的指導力の修得を図る。各種武道（剣道・柔道）における個人技能及び対人技能を安全に楽しく習得させるための実技と演習を行う。	【知識・技能】学習指導要領に記載される武道の目標及び内容を説明でき、単元計画及び学習指導案に活かすことができる。【思考力・判断力・表現力】柔道や剣道の技術構造や習得過程について理解し、教材づくりに活用できる。【主体性・協働性】教材研究に主体的に取り組むとともに、他者と協働して授業の分析、評価、診断、省察を行うことができる。	◎	◎	○
専攻 コース 科目	学校保健Ⅰ（学校安全を含む。）	3年生	前	「学校保健」および「学校安全」の性格を理解しつつ、歴史的な背景をふまえて、「学校保健活動」を具体的な実践として説明できることを目指します。そのため、既存の理論・データおよび現場の状況から「学校保健活動」を理解できるように、教員が各テーマについて解説する時間だけではなく、受講生同士が持つ考え方やアイデアを共有し合う活動を行います。	・「学校保健」および「学校安全」の性格を理解し、具体的な説明ができる。・「学校保健」および「学校安全」がどのような活動・枠組みで構成されているのかを理解できる。・理論やデータと、自分自身の目指したい「学校保健活動」とを結びつけて、具体的な実践を計画できる。	◎	◎	◎
専攻 コース 科目	学校保健Ⅱ（小児保健・精神保健を含む）	3年生	後	「学校保健」、特に「小児保健」および「精神保健」の性格を理解しつつ、歴史的な背景をふまえて、「学校保健活動」を具体的な実践として説明できることを目指します。そのため、既存の理論・データおよび現場の状況から「学校保健活動」を理解できるように、教員が各テーマについて解説する時間だけではなく、受講生同士が持つ考え方やアイデアを共有し合う活動を行います。	・「子どもの人権」について理解し、説明できるようにする。・学齢期の子供たちに特有な疾病のうち、学校活動とかかわりの強い疾病の基本的事項や、その対策について理解する。・学齢期の子供たちにおける精神疾患の現状や、その対策を理解する。・学齢期の子供たちにおける性行動・危険行動などについて、その現状と対策を理解する。	◎	◎	○
専攻 コース 科目	学校保健指導演習	3年生	後	本科目では、主に「保健の授業」について実践的な側面を扱います。具体的には、学習指導案の作成や模擬授業の検討会を通して、それぞれの目指したい授業を実践していけるような資質・能力の形成を目標とします。	①教科教育としての「保健」の位置づけを理解する②他者の学習指導案を評価できる③模擬授業を実施できる④他者の模擬授業を評価できる	◎	○	◎
専攻 コース 科目	社会体育論	2年生	前	社会体育は、現在では生涯スポーツと位置付けられており、生涯スポーツの現状や課題、意義について、自治体の政策実務をふまえた講義を展開する。	・生涯スポーツの現状と課題について説明できる。・学校体育と生涯スポーツの違いや関連性について説明できる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	ジュニアスポーツ論	3年生	前	年齢段階の発育・発達およびその個人差を理解し、それに応じたプログラムを選択、指導することが必要である。理解なく、誤った指導を行なった場合、子どもにとって重大なスポーツ障害を発症させる可能性がある。本講義では、乳幼児期から青年期までの発育・発達に応じたスポーツプログラムについて体系的に学習し、ジュニアスポーツを指導するものとして必要な能力を身につけた学生の育成を目指す。	遊びや運動の方法や注意点について性、年齢あるいは、意欲に応じた指導方法を考えられる知識を得ることができる。また、ジュニア期のスポーツ指導者として多様なニーズに対応した基礎知識と指導法を習得することができる。	◎	◎	○
専攻 コース 科目	ジュニアスポーツ指導演習	3年生	後	本科目は、ジュニアスポーツの指導場面において必要とされる、コーディネーショントレーニングの指導方法について、主に理論学習や模擬指導を実施する。また、子どもたちが自主的に運動(活動)を行えるようなゲームを紹介する。	①「走る」「跳ぶ」「投げる」等の運動動作を理解し、説明・記述・実践できる。②多種多様なゲームの指導ができる。③立案した指導計画(指導案)を基に、実技指導ができる。④模擬指導に積極的に参加し、その後の討論で意見を述べることができる。⑤指導の組み立てと時間配分が的確にできる。	○	○	◎
専攻 コース 科目	アスレティックトレーナー概論	1年生	後	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、授業を展開する。本講義ではアスレティックトレーナーの歴史や役割について概略を説明する。また、日本スポーツ協会の公認アスレティックトレーナー資格に焦点を当て、検定試験の内容や受験資格に関して説明する。	アスレティックトレーナーの歴史や役割の概略を学ぶことで、アスレティックトレーナー関連科目の学びの意義と目的を明確にすることができるようになる。	◎		○
専攻 コース 科目	機能解剖学Ⅰ	2年生	前	アスレティックトレーナーとしてアスリートへ実施したスポーツ傷害のリハビリテーションやリコンディショニングでの経験を活かし、スポーツ傷害やリコンディショニングを機能解剖学的に理解できるように授業を展開する。①人体の動きを理解するために必要な骨、関節、筋肉、神経などの解剖学的用語について学ぶ。②運動学的側面からの人体の機能について学ぶ。③本科目では運動器の機能解剖概論、運動力学の基礎、上肢の機能解剖について学ぶ。	①人体の動きを理解するために必要な骨、関節、筋肉、神経などの解剖学的用語について説明することができる。②運動学的側面からの人体の機能について説明することができる③本科目では運動器の機能解剖概論、生体力学の基礎、上肢の機能解剖について説明することができる。	◎	○	◎
専攻 コース 科目	機能解剖学Ⅱ	2年生	後	アスレティックトレーナーとしてアスリートへ実施したスポーツ傷害のリハビリテーションやリコンディショニングでの経験を活かし、スポーツ傷害やリコンディショニングを機能解剖学的に理解できるように授業を展開する。①人体の動きを理解するために必要な骨、関節、筋肉、神経などの解剖学的用語について学ぶ。②運動学的側面からの人体の機能について学ぶ。③本科目では体幹の機能解剖、下肢の機能解剖、スポーツ傷害からみた機能解剖について学ぶ。	①人体の動きを理解するために必要な骨、関節、筋肉、神経などの解剖学的用語について説明することができる。②運動学的側面からの人体の機能について説明することができる。③本科目では体幹の機能解剖、下肢の機能解剖、スポーツ傷害からみた機能解剖について説明することができる。	◎	○	◎
専攻 コース 科目	スポーツ傷害論Ⅰ	2年生	前	スポーツ選手の外傷・障害の予防、救急処置、受傷から復帰までのアスレティックリハビリテーション、コンディショニングなどを実践していくためには、スポーツ医学に関する知識と技術が必須である。本科目では、スポーツ選手を医学的側面からサポートする際に欠かすことの出来ないスポーツ外傷・障害の基礎知識について主に体幹と上肢を中心に解説する。	①スポーツ外傷・障害の概要を理解し説明できるようになる。②スポーツにおいて発生する体幹部および上肢のスポーツ外傷・障害の病態や特性を理解し説明できるようになる。③スポーツ外傷・障害の基礎知識を基にアスレティックトレーニング、トレーニング指導、もしくは、自らの怪我の予防や競技復帰などについて考えられるようになる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	スポーツ傷害論Ⅱ	2年生	後	スポーツ選手の外傷・障害の予防、救急処置、受傷から復帰までのアスレティックリハビリテーション、コンディショニングなどを実践していくためには、スポーツ医学に関する知識と技術が必須である。本科目では、スポーツ選手を医学的側面からサポートする際に欠かすことの出来ないスポーツ外傷・障害の基礎知識について下肢のスポーツ外傷・障害、重篤な外傷、スポーツ整形外科的メディカルチェックなどについて解説する。	①スポーツ外傷・障害の概要を理解し説明できるようになる。②スポーツにおいて発生する下肢のスポーツ外傷・障害や重篤な外傷の病態を理解し説明できるようになる。③スポーツ外傷・障害の基礎知識を基にアスレティックトレーニング、トレーニング指導、もしくは、自らの怪我の予防や競技復帰などについて考えられるようになる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	コンディショニング論	2年生	前	本科目では、スポーツ現場におけるコンディショニングの定義及び手法を学ぶ。コンディショニングとコンディショニングを考え、セルフコンディショニングを含んだ概念を理解し各種コンディショニングの方法を学ぶ。	①コンディショニングとコンディショニングの意味を説明できる②コンディショニングの必要性やその実施方法を説明できる③アスレティックトレーナーになるためのコンディショニングの基礎知識を身につけスポーツ現場で実践できる	◎	◎	○
専攻 コース 科目	コンディショニング演習	2年生	後	本講義では、「コンディショニング論」で学んだ手法などを実践し、その注意点について学ぶ。また、競技者を想定し、これまで学んだ知識・技術を活用し、様々なプログラムの立案・設計を行う。	目標を達成するためのコンディショニングプログラムを作成することができる。コンディショニングを実践し、指導することができる。	◎	◎	◎

専攻 コース 科目	身体機能評価法	2年生	後	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、スポーツ現場で実施されている評価法や検査法を展開していく。競技間の違いによる検査法の選択や、競技特性を考慮した検査法を学習しより実践に近い内容とする。授業ではアスレティックトレーナーとして必要な検査・測定法を学習し、その得られたデータを統合させコンディショニングの維持、外傷の予防、怪我からの復帰など選手に対して最善の状態に持っていくために必要な知識・技術の学習を行う。実技演習も実施し、検査・測定方法を実際に体験し、技術の習得を目指す。また、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格取得に必要な筆記試験・実技試験の内容を中心に学習していく。	①各種の評価法の理解と実施が出来るようになること②身体機能評価で得られたデータを統合できるようになること③動作分析ができるようになること 授業到達目標は上記①～③に加え、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格取得に必要な筆記試験・実技試験の内容を含む。また、学生トレーナーとして選手のコンディショニングの管理が出来るようになることを目指す。	○	○	◎
専攻 コース 科目	スポーツ傷害評価法	3年生	前	本講義はスポーツ現場でみられる外傷・障害に対する関節可動域測定、徒手筋力検査、整形外科的検査などの理学検査を用いた評価法を学ぶ。	HPOSに沿って問診をすることができる。評価に必要な検査・測定ができる。主訴及び受傷機転から必要な検査を選択し、実践することができる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	リハビリテーション論	3年生	前	本講義は、3年生後期のアスレティックリハビリテーション論、4年生前期のアスレティックリハビリテーション演習に続く最初の講義である。アスレティックリハビリテーションとは何かを理解し、スポーツ現場で行われるアスレティックリハビリテーションの前段階であるメディカルリハビリテーションの理論と方法について学ぶ。	リハビリテーションについて理解し、説明できるようになる。メディカルリハビリテーションについて理解し、説明及び実践できるようになる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	アスレティックリハビリテーション論	3年生	後	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、授業を展開する。本講義では、部位および傷害別におけるアスレティックリハビリテーションについて学ぶ。具体的には傷害発生メカニズムから再発予防までを考慮したアスレティックリハビリテーションプログラムの概要や作成方法について学ぶ。	1. 各部位および傷害別におけるアスレティックリハビリテーションの概要を理解し、説明できるようになる。2. 安全かつ効果的なプログラムを作成できるようになる。	◎	○	
専攻 コース 科目	アスレティックリハビリテーション演習	4年生	前	アスレティックトレーナーとしての経験をもとに授業を展開する。各種スポーツ外傷・障害に対するアスレティックリハビリテーションの流れを理解する。また、傷害発生メカニズムから再発予防、また各競技の特性を理解したうえでプログラム作成ならびに適時各エクササイズの実践を行う。	1. 競技現場における安全で効果的なアスレティックリハビリテーションを実践・指導をすることが出来る。2. 各スポーツ傷害および競技特性を踏まえて適切なプログラムを作成することが出来る。3. 競技復帰だけではなく再発予防という観点からも指導をすることが出来る。	◎	◎	
専攻 コース 科目	スポーツ内科学	3年生	後	スポーツドクターとしてアスリートの診療やメディカルチェックを行う教員が、その経験を活かし、実践に即した内容の授業を行う。スポーツには、成績を競う競技スポーツの側面だけではなく、健康増進を目的に行う健康スポーツの側面がある。また、スポーツにおける健康障害には、整形外科的な障害だけでなく、内科的障害もある。本講義では、高齢者・有疾病者を含むすべての人々が安全にスポーツを行うことができるよう内科的な知識を習得し、その実践を行えるようになることを目的とする。	内科的疾患およびスポーツによってもたらされる内科的障害を理解し、安全にスポーツを行えるように指導することができる。メディカルチェックの内容・方法を理解し、実践することができる。ドーピングコントロールについての知識を習得し、適切なアドバイスをできるようになる。スポーツによる内科的障害を理解し、その予防計画を立案できる。	◎		○
専攻 コース 科目	アスレティックテーピング（AT受験者）	3年生	前	アスレティックトレーナーとしての経験をもとに授業を展開する。スポーツ外傷・障害の予防、保護、再発予防などに用いられるテーピングの基本的な巻き方を学ぶ。また、各競技やスポーツ外傷・障害の特性を考慮した応用的な巻き方についても学ぶ。	1. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー（JSPO-AT）取得者と同レベルの知識と技術を修得する。2. 競技者に対して適切なテーピングを巻くことが出来る。	◎	○	
専攻 コース 科目	アスレティックトレーニング現場実習Ⅰ	3-4年生	前	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、授業を展開する。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー試験を受験するには有資格者の下で180時間以上の実習を行う必要がある。日本スポーツ協会の指定実習内容は①見学実習（30時間）、②検査・測定、評価実習（30時間）、③スポーツ現場実習（30時間）、④アスリハ実習（30時間）、⑤総合実習（60時間）である。アスレティックトレーニング現場実習Ⅰはこのカテゴリーの①見学実習（30時間）に相当する。担当者（辰見・名頭 薫）	学生トレーナーとして実習を行い、アスレティックトレーナー活動への理解を深め、スポーツ現場で実践できるようになる。5種類のスポーツ競技を見学し、競技特性や想定されるスポーツ外傷・障害をまとめることができる。	○	◎	◎
専攻 コース 科目	アスレティックトレーニング現場実習Ⅱ	3-4年生	前	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、授業を展開する。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー試験を受験するには有資格者の下で180時間以上の実習を行う必要がある。日本スポーツ協会の指定実習内容は①見学実習（30時間）、②検査・測定、評価実習（30時間）、③スポーツ現場実習（30時間）、④アスリハ実習（30時間）、⑤総合実習（60時間）である。アスレティックトレーニング現場実習Ⅱはこのカテゴリーの②検査・測定、評価実習（30時間）に相当する。担当者（西山・名頭 薫）	学生トレーナーとして実習を行い、アスレティックトレーナー活動への理解を深め、スポーツ現場で実践できるようになる。主要なスポーツ外傷・障害に対して検査・測定、評価し、それらを適切に記録することができるようになる。	◎	◎	◎
専攻 コース 科目	アスレティックトレーニング現場実習Ⅲ	3-4年生	前	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、授業を展開する。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー試験を受験するには有資格者の下で180時間以上の実習を行う必要がある。日本スポーツ協会の指定実習内容は①見学実習（30時間）、②検査・測定、評価実習（30時間）、③スポーツ現場実習（30時間）、④アスリハ実習（30時間）、⑤総合実習（60時間）である。アスレティックトレーニング現場実習Ⅲはこのカテゴリーの③スポーツ現場実習（30時間）に相当する。担当者（辰見・西山）	学生トレーナーとして実習を行い、アスレティックトレーナー活動への理解を深め、スポーツ現場で実践できるようになる。スポーツ現場で発生するスポーツ外傷・障害に対して評価を行い、適切な応急処置、ストレッチング指導、テーピング等を行うことができるようになる。	◎	◎	◎
専攻 コース 科目	アスレティックトレーニング現場実習Ⅳ	3-4年生	後	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、授業を展開する。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー試験を受験するには有資格者の下で180時間以上の実習を行う必要がある。日本スポーツ協会の指定実習内容は①見学実習（30時間）、②検査・測定、評価実習（30時間）、③スポーツ現場実習（30時間）、④アスリハ実習（30時間）、⑤総合実習（60時間）である。アスレティックトレーニング現場実習Ⅳはこのカテゴリーの④アスリハ実習（30時間）に相当する。担当者（西山・名頭 薫）	学生トレーナーとして実習を行い、アスレティックトレーナー活動への理解を深め、スポーツ現場で実践できるようになる。主なスポーツ外傷・障害に対して適切なアスレティックリハビリテーションプログラムを作成し、指導することができるようになる。	◎	◎	◎

専攻 コース 科目	アスレティックトレーニング現場 実習Ⅴ	3-4年生	後	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、授業を展開する。日本スポーツ公認アスレティックトレーナー試験を受験するには有資格者の下で180時間以上の実習を行う必要がある。日本スポーツ協会の指定実習内容は①見学実習(30時間)、②検査・測定、評価実習(30時間)、③スポーツ現場実習(30時間)、④アスリハ実習(30時間)、⑤総合実習(60時間)である。アスレティックトレーニング現場実習Ⅴはこのカテゴリーの⑤総合実習(60時間)の前半に相当する。担当者(辰見、名頭薫)	学生トレーナーとして実習を行い、アスレティックトレーナー活動への理解を深め、スポーツ現場で実践できるようになる。主なスポーツ外傷・障害に対して適切な評価を行い、アスレティックリハビリテーションプログラムを作成し、外傷発生から競技復帰に至る全てのプロセスを指導することができるようになる。	◎	◎	◎
専攻 コース 科目	アスレティックトレーニング現場 実習Ⅵ	3-4年生	後	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、授業を展開する。日本スポーツ公認アスレティックトレーナー試験を受験するには有資格者の下で180時間以上の実習を行う必要がある。日本スポーツ協会の指定実習内容は①見学実習(30時間)、②検査・測定、評価実習(30時間)、③スポーツ現場実習(30時間)、④アスリハ実習(30時間)、⑤総合実習(60時間)である。アスレティックトレーニング現場実習Ⅵはこのカテゴリーの⑤総合実習(60時間)の後半に相当する。担当者(辰見、西山)	学生トレーナーとして実習を行い、アスレティックトレーナー活動への理解を深め、スポーツ現場で実践できるようになる。主なスポーツ外傷・障害に対して適切な評価を行い、アスレティックリハビリテーションプログラムを作成し、外傷発生から競技復帰に至る全てのプロセスを指導することができるようになる。	◎	◎	◎
専攻 コース 科目	健康フィットネス概論	1年生	後	生活習慣病のような文明病は、個々の意識の向上と社会的システムの構築によって十分克服できるものとする。そこで本講義では、健康とは何か、フィットネスに対する関心の高まりの社会的背景、健康とフィットネスとの関係、運動のプログラムなどについて学習するとともに、健康運動指導士及び健康運動実践指導者資格の受験に必要な基本的知識を学習する。	・健康運動指導士と健康運動実践指導者の役割を説明できる。・健康づくりのための各種方法を説明できる。・運動が身体に及ぼす影響を説明できる。	◎		
専攻 コース 科目	健康づくり運動理論	2年生	前	運動は、主に生活習慣病の予防・治療にとって食事療法・薬物療法と並んで有効な手段である。しかし、運動の仕方を間違えうとあって病状を悪化させることもある。ある目的をもって運動しようとするとき、その目的を達成するのに最も適した運動の内容を決めることを「運動処方(Exercise Prescription)」という。本講義は、健康を回復・保持・増進するための方法として、運動の原理・原則について学び、実際に運動処方(運動プログラム)を作成するときの基礎知識を習得させる。	運動不足から発症する生活習慣病を予防・治療することを目的とした運動を処方するための基礎知識を理解し、健康づくり運動指導者に求められる資質を高める。	◎	○	
専攻 コース 科目	健康づくり運動実技	2年生	後	健康づくりのために運動を行なうことは、現代社会においては必要不可欠であり、そのための運動指導者の役割や使命は大きなものになってきています。本実習では、運動指導者として最低限必要とされるスキルを身に付けながら、健康づくり運動として捉えられている運動(特に陸上運動としてのストレッチング・ジョギング・ウォーキング・レジスタンスエクササイズ)についての知識と理解を深め、さらに実践力を高めていきます。「健康運動実践指導者」資格取得を目指して学びを深めていきます。	健康づくり運動の指導者として求められる知識と指導技術を習得する。特に、運動効果を高めるためのフォームや対象者に応じた運動の組み立て方、指導現場における安全管理のノウハウについて身につける。具体的には、健康づくり運動を①適正な動作・フォームで実演できる②目的を理解し説明できる③適切な表現で伝達できる④ポイントや注意点を指導できる⑤対象者を観察し動きの修正や動機付けができる技能を身に付ける。	◎	◎	
専攻 コース 科目	運動器の構造と機能	2年生	前	本科目では、人体の骨格や筋肉の構造など、ヒトの運動にかかわる身体の構造とその機能について基本的な知識を身に付けることを目的とする。また、トレーニング指導や運動処方を行う際に必要な運動学的知識についても学ぶ。	①ヒトの運動にかかわる基本的な身体の構造とその機能を理解し説明することができる。②ヒトの筋肉や骨、靱帯など基本的な部位を触ることができる。③基本的な運動学の知識を基に、適切なトレーニング指導や運動処方について考えることができる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	健康医科学論	2年生	前	健康の概念、またスポーツ活動と健康の関連について医科学の面から学ぶ。スポーツは、健康増進に寄与すると考えられるが、スポーツ活動に伴う医科学的諸問題も存在する。それらの諸問題、特にスポーツ外傷や障害、内科的障害の特性や対応策について講義する。本授業は現役の医師の経験を活かした授業を展開する。	本講義を通してスポーツ・健康運動現場において見られる様々な外傷・障害、内科的障害の概要を理解し、それらの予防と対応ができる。またスポーツ現場における安全管理者としてスポーツ活動の現場の安全性の向上を図り、スポーツ医科学の専門家と連携をとることができる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	スポーツカウセリング論	3年生	前	スポーツカウセリングは、選手へのカウンセラーによる心理的支援、あるいは両者の共同作業によって、選手の自己の内的変容や成長が促される営みである。選手の内的変容や成長に伴って、安定した競技力の発揮や向上にもつながることが期待できる。本講義は、スポーツカウセリングの基礎的な理論及び方法について学び、自身の競技実践また将来の指導実践において役立つ知見を学習する。	1. スポーツ場面において競技者が抱える不安や受傷体験など、その意味について臨床学的に考察することができる。2. カウンセラーの基本的態度について理解し、説明することができる。3. カウセリングの継続や中断の意味について理解し、説明することができる。4. カウセリングのベースとなっている理論について説明することができる。5. スポーツカウセリングとメンタルトレーニングの違いについて説明することができる。	◎	○	
専攻 コース 科目	運動生理学	2年生	後	運動生理学は運動及び特殊な環境下での身体機能の一時的、持続的な変化について学び、研究する学問です。運動・健康に携わる指導者にとって必要な知識を学習し、身体活動時の生理的变化を科学的な立場から考察できる資質を養うことが目的です。本授業では骨格筋系、神経系、呼吸器系、循環器系等の運動時のメカニズム及び特殊環境下での身体適応について学習します。	健康運動指導士試験に合格できるレベルを到達目標とする。運動及び環境の変化が身体に及ぼす効果を論理的に説明できる。	◎	○	
専攻 コース 科目	生活習慣病概論	3年生	前	「生活習慣病」とは、運動や食事・喫煙・飲酒・睡眠などの生活習慣が、発症および進行に関与する疾患群であり、代表的なものとしては、糖尿病・高血圧症・脂質異常症・肥満症・メタボリックシンドローム・虚血性心疾患・ロコモティブシンドロームなどがあげられる。これらの疾患について概説するとともに、基礎的な医学的知識を習得することを目標とする。また、これらの疾患を改善させる「運動療法」についても学習する。本授業は、現役医師の経験を活かした授業を展開する。	生活習慣病の定義やその病態を理解し、それぞれの疾患についての診断・治療等について理解できる。運動療法を行うにあたって、基本的な医学的知識を身につける。有疾病者に対しても、安全に運動療法を行うことができる。効果的かつ安全な運動プログラムを立案できる。	◎		○
専攻 コース 科目	運動負荷試験	3年生	前	本授業は運動時に発症する潜在的な疾患に対する診断と評価及び運動療法や薬物療法に対する効果判定に必要な運動負荷試験の知識と技術を学ぶ。運動負荷には専用の自転車エルゴメーター及びトレッドミルを使用し、運動強度を自動設定して標準12誘導の心電図を計測する。測定された心電図波形を解析し、心電図評価を実施する。運動負荷試験実習およびその判定・評価では、日本医師会認定健康スポーツ医が指導を行う。担当者(梨羽・下野)	1.運動負荷試験を対象別に実施できるようになる。2.基本的には異常心電図を判別できるようになる。3.運動負荷試験の事故発生に対して適切な処置がとれるようになる。	◎	○	○

専攻 コース 科目	運動プログラムの管理	3年生	後	本授業は健康運動指導士にとって必要な健診結果の読み方、メディカルチェック、心電図の読み方、生活習慣病改善のための運動プログラムの作成の理論、服薬者の運動プログラムに関する基礎知識の習得と具体的な運用法について学ぶ。	・健康診断(含・特定健診)、メディカルチェックの内容および重要性を理解する。・心電図の基本的特性および重要性を理解する。・メタボリックシンドロームおよび各種生活習慣病予防・改善に向けた運動プログラムが作成できる。・服薬者の運動管理ができるようになる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	介護と福祉のフィットネスプログラム	3年生	後	本授業は介護予防のための運動やレクリエーションに対する考え方から実践までを学びます。また、高齢者を対象に運動プログラムの知識と技術を幅広く学びます。	・介護予防事業の体力測定評価を実践することができる。・対象や目的に合わせた運動プログラムを立てることができる。・対象や目的に合わせたレクリエーション活動のプログラムを立案、実施することができる。	◎	○	◎
専攻 コース 科目	健康栄養指導演習	3年生	後	健康を保持・増進し、疾病を予防あるいは治療する上で運動とともに食事の果たす役割は非常に大きい。生活習慣病予防や有疾患者に対する運動指導においても、その効果を発揮するためには食生活への指導が不可欠である。本演習は栄養指導能力向上のため、前半は健康・体力づくり事業財団認定の健康運動指導士養成カリキュラムのテキストに準じて授業を進め、後半はフードモデルによる演習を重視する。	ヒトのライフステージごとに、食生活を通して健康を保持・増進するために必要な理論および実践的な知識や技法を習得し、健康づくりのための栄養・食生活の助言ができる。	◎	◎	○
専攻 コース 科目	アクアエクササイズ	2年生	後	フィットネスクラブ、民間企業、病院内でマタニティの方、リハビリ目的、高齢者、スポーツ愛好者様々な方に指導を行ってきた経験を活かした授業を展開する。健康・体力づくりの指導を、プールという環境を利用し、水の特性を理解した上で、ウォーミングアップ、有酸素運動、筋力トレーニング、リラクゼーション、レクリエーションを水中ウォーキングや音楽に合わせて行う、アクアダンスエクササイズの手法で学び、実演、指導が出来るようになる。	・水中で行うエクササイズのパログラムを作成することが出来る。・水中で運動を行っている方を、陸の上から実演し、指導をする。・健康運動実践指導者、日本フィットネス協会のアクアエクササイズ実技試験合格レベルの実演、指導を習得を目指す。	◎	○	○
専攻 コース 科目	エアロビックエクササイズ	3年生	前	フィットネスクラブ、民間企業、病院、福岡市健康づくり講座講師など、親子フィットネス、マタニティエクササイズ、リハビリ、スポーツ愛好者など、エアロビックダンスを用いて、色々な現場で指導してきた経験を活かした授業を展開する。様々な対象者に合わせたクラスに対応できるような運動強度の変化を学び、エアロビックダンスの中でもメインエクササイズのパログラミング法を中心に学ぶ。同時にエアロビックダンスⅠで取得している、動作や指導スキルも高め、インストラクターとして総合的にレベルを高めていく。	安全で効果的なプログラムを作成、実演、指導できるように学ぶ。エアロビックダンスの楽しさを伝えられる指導力を身に付け、グループエクササイズでありながらも、参加者一人一人にあった指導が出来るようにする。	◎	○	◎
専攻 コース 科目	健康産業施設実習	3~4年生	前	夏期休暇を中心として10日間のインターンシップを実施する。実習先は健康運動指導士が在籍するスポーツクラブ、メディカル施設等の健康産業施設とする。実習内容は、運動プログラム作成、運動指導及び指導補助、施設管理、事業運営など現場で行われているすべての業務とする。	実習を遂行し、報告書としてまとめることができる。まとめた内容を人前で発表・報告することができる。	◎	◎	○
専攻 コース 科目	スポーツ政策概論	1年生	後	国や地方公共団体のスポーツ政策について、地方公共団体におけるスポーツ政策実務の経験をふまえた講義をおこなう。	・国及び地方公共団体のスポーツ政策の現状と課題についての説明ができる・スポーツに関連する他の施策・事業について理解している	◎	○	○
専攻 コース 科目	スポーツ政策各論	2年生	前	国や地方公共団体のスポーツ政策について、地方公共団体におけるスポーツ政策実務の経験をふまえた講義をおこなう。	・国及び地方公共団体のスポーツ政策の現状と課題についての説明ができる・スポーツに関連する他の施策・事業について理解している	◎	○	○
専攻 コース 科目	スポーツ組織論	2年生	前	近年、スポーツ界においても組織力を高めることが指摘されている。これまでのスポーツは属人的な組織が多く、例えばチームなどの場合は指導者に意思決定を委ねたり、協会的な組織も一部の人材によって意思決定が行われるなどしている。そこで、本授業では担当教員自身がスポーツNPO法人の代表理事(20年)と日本スポーツ協会が推進する総合型地域スポーツクラブのクラブアドバイザーを福岡県体育協会で従事(15年)した経験を活かし、スポーツ人における組織づくりを学んでいく。	1. 組織論を理解し、個人としての自分と組織人としての自分を認識することができる 2. スポーツ組織の社会的な課題を指摘し、解決策を立てることができる 3. 組織におけるコミュニケーションスキルを身につけることができる	○	○	◎
専攻 コース 科目	地域スポーツ政策演習	2年生	後	スポーツ政策の分野は量的にも質的にも、その研究は著しく少ないと指摘されている。実際の行政政策の場においても、その専門家が存在することは皆無に等しい。各分野の専門家は存在しても、政策の専門家がコーディネートすることは少なく、またソーシャルアイデアとして政策を策定することも難しい。授業は担当教員がスポーツNPO法人の代表理事(20年)と日本スポーツ協会が推進する総合型地域スポーツクラブのクラブアドバイザーを福岡県体育協会で従事(15年)し、行政政策に関わった経験を活かしながら展開する。	1. 地域スポーツ政策の実際を学び理解することができる 2. スポーツプロダクトとしてのソーシャルアイデアを学び、自身で計画できるようになる 3. 我が国に必要なスポーツ政策を立案できるようにする	○	◎	○
専攻 コース 科目	生涯スポーツ論	2年生	前	本授業では、生涯学習の視点からスポーツとすべての世代との関係性を検討する。その際、ライフステージを通したスポーツの享受と社会全体における多様な機会、例えば、学校教育、成人教育、高齢者対象のパログラム、地域社会でのスポーツクラブでのスポーツ環境の重要性について学ぶことを目的とする。	(1)生涯スポーツに関する基礎基本を理解し、説明ができる。(2)各ライフステージにおける生涯スポーツの重要性を理解し、説明ができる。(3)地域社会を基盤としたスポーツ振興の重要性について理解し、説明ができる。	○		◎
専攻 コース 科目	生涯学習と社会体育	2年生	後	生涯スポーツ及び社会体育の概念や意義(使命と役割)を理解しながら少子高齢化や国民の健康スポーツに関するニーズを踏まえて、その実現に寄与できる知識と態度を涵養する。また生涯スポーツ及び社会体育を効果的に実現するための行政の在り方について、各機能相互の連携・協働とその体系化について学ぶとともに、2020年東京オリンピック・パラリンピックを契機に注目を集めているバラスポーツ(障がい者スポーツ)の視点から生涯スポーツ及び社会体育における人権意識の涵養についても講義する。	①生涯スポーツ及び社会体育の概念について理解し、説明できる。②生涯スポーツ及び社会体育の意義について理解し、説明できる。③生涯スポーツ及び社会体育の関係性について理解し、説明できる。④生涯スポーツ及び社会体育と行政(生涯学習行政、社会教育行政)との連携・協働について理解し、説明できる。⑤生涯スポーツ及び社会体育と人権の関係性について理解し、説明できる。	◎	○	○

専攻 コース 科目	生涯スポーツと社会体育の指導者	3年生	前	国民の誰もがそれぞれの体力や年齢、技術、興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現が求められている。本授業では、地域住民の多様なニーズに対応できる生涯スポーツ・社会体育指導者養成の一環として、基本的な概念の理解や資質・能力を高めることをねらいとして、①生涯学習時代における生涯スポーツ・社会体育の位置づけや役割、法的根拠、考え方の変遷について学習する。②それぞれの世代の特性、支援の方法・形態について理解を深める。③指導者に求められる資質・能力や果たすべき役割について学習する。④総合型地域スポーツクラブの意義や現状と課題について学習する。	①生涯学習時代における生涯スポーツ・社会体育の位置づけや役割、法的根拠、考え方の変遷について説明することができる。②青少年、成人、高齢者等それぞれの特性、指導方法について理解を深め、指導の方法・形態について説明することができる。③生涯スポーツ・社会体育指導者の専門職員に求められる資質・能力や役割について説明する事ができる。④総合型地域スポーツクラブの意義や現状と課題について説明し、解決策を提示することができる。⑤指導者としての自己理解を深め、人前で表現することができる。	◎	○	◎
専攻 コース 科目	生涯スポーツと社会体育の計画・立案	3年生	後	生涯学習と社会教育の中で、生涯スポーツと社会体育の果たす役割を理解する。その上で、社会のニーズに対応する計画・立案の考え方、方法等の概要を理解する。まずは、先進的事例を分析しながら、中・長期計画、年間事業計画、個別事業計画、学習 展開計画の違いとその関係性について理解を深め、全体像を把握する。その後、対象者別のニーズを把握し、それぞれに対応した事例や地域の核としての総合型地域スポーツクラブの事例分析を通して、現在の状況を把握する。最終的には、グループで実際に個別事業計画、学習展開計画を計画・立案することができるようになる。	生涯学習と社会教育全般の意義と役割を理解した上で、生涯スポーツ・社会体育の果たす意義と役割を理解し、社会のニーズに対応した個別事業計画・学習展開計画を実際に立案できる。①生涯スポーツ・社会体育の行政上の位置づけと意義について説明することができる。②計画立案をする際の社会的ニーズについて説明できる。③計画立案の手順についてポイントを記述することができる。④実際の個別事業計画を参考にして、自分が関心あるテーマの個別事業計画を作成できる。⑤グループワーク・討議や発表を通して、問題解決型の計画・立案ができる。	◎	◎	○
専攻 コース 科目	生涯スポーツと社会体育の経営	3年生	後	今日的な社会課題と生涯スポーツについての理解を深めます。生涯スポーツにおける経営について、ケースを用いた討論をおこないます。	・生涯スポーツについての社会的意義を説明できる・生涯スポーツ振興施策を経営的視点でとらえることができる	○	◎	○
専攻 コース 科目	スポーツ社会教育実習	3年生	前	講義・演習で学んだ知識を社会体育の現場で理解を深めるとともに、学習活動に参加することにより、教室では得ることのできない体験の機会を持つことができる。実習先は教育委員会、自治体及び民間の社会体育施設等とし、実習期間は2週間(80時間)とする。	①地域の人々とコミュニケーションを図ることができる。②履歴書・エントリーシート等実習先への提出に必要な書類を作成できる。③実習を希望する施設と交渉し、承諾を取ることができる。④実習先の指示に従いながら現場で実習することができる。⑤実習日誌を通して自分の体験したことを文章にまとめ、報告することができる。⑥実習内容をプレゼンテーションすることができる。	◎	○	◎
専攻 コース 科目	生涯学習支援方法論	3年生	前	地方公共団体における人権学習等の指導者養成の実務経験を活かし、効果的な学習支援の方法、学習プログラムの作り方、参加型学習の実際とファシリテーションのスキルについて、実践的な授業を展開する。	・生涯学習の意義を理解している・学習者の特性に応じたプログラムを作成することができる・ワークショップなどにおいて、適切なファシリテーションができる	○	◎	○
専攻 コース 科目	ボランティア活動と生涯スポーツ	3年生	後	生涯スポーツに関するボランティア活動をする個人の個人的な意義、例えば自己開発や自己実現を再認識するとともに、各個人のスポーツボランティア活動が、直接かつ間接に人々の生涯スポーツを支援することにもつながっていることを認識し、その結果として生涯スポーツの振興が図られていることについての理解を深める。	(1)生涯スポーツに関するボランティア活動における個人的な意義を理解できる。(2)生涯スポーツにおけるボランティア活動が自己開発や自己実現に効果があり、かつ他者の生涯スポーツの支援につながっていることが理解できる。(3)スポーツボランティアの活動が生涯スポーツの振興に寄与していることを理解することができる。	○		◎
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	スポーツの世界において競技者の競技能力向上や傷害予防の立場から、体力や運動能力に関する様々な測定が行われるようになった。本演習では科学的サポートを行うための基礎として、筋力やパワーの測定法を享受しながら、到達目標を達成できるよう授業時間外においても継続的に指導、支援する。	○等速性筋力測定器(サイベックス)が使用できるようになる。○キネアナライザー等の分析ソフトが使用でき、分析に必要な作図ができるようになる。○各自のテーマに沿った文献を収集することができるようになる。	◎	◎	◎
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	本授業は、4年次の卒業研究に結びつくものとして捉えている。取り扱う領域は、運動生理学、環境生理学、体力医学、健康科学、海洋スポーツ(スクーバダイビング)で、各自の目的・目標に合わせた知識と技術の習得を目指す。また、4年次の卒業研究を見据えて研究の技法についても学ぶ。本ゼミナールで目指せる資格は、健康運動指導士、健康運動実践指導者、スクーバダイビングである。	各自のゼミ履修の目的に合わせた専門知識と技術を習得する。様々な研究者の文献を読みこなすことで、研究への取り組み方、研究手法、レポートのまとめ方などを習得し、答えの見つからないテーマに対していかに自分なりの答え(結論)を導き出すか、といった研究する態度を身につける。	◎	◎	◎
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	本演習は、卒業研究を作成するための基礎的能力を養い、研究の方向性を明確にすることを目的にする。前期は、論文を収集し講読することにより専門分野への理解を深める。また、運動生理・バイオメカニクス分野の実験方法とデータの解析方法を学ぶ。後期は、先行研究を詳細に検討し予備実験を実施、自らの研究計画を取りまとめる。	①収集した先行研究を要約し、概要をまとめることができる。②自ら研究計画をとりまとめ、発表することができる。	◎	○	○
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	スポーツゼミナールでは、卒業研究に向けたスポーツ科学の基礎的な研究に関わる能力を習得する。	研究論文作成に関わる能力を習得する。研究論文テーマの設定ができる。テーマ設定の理由が説明できる。研究目的を箇条書きで示すことができる。先行研究の文献検索ができる。	○	○	◎
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	スポーツの世界における栄養指導の理想は、スポーツ選手の食事調査を行い→問題点を把握し→介入指導を行い→改善結果を得ることである。卒業研究に向けて、食事調査手法の検討とともに栄養学の知識を修得し、栄養指導のできるスポーツ指導者やトレーナーを目指す礎を作ることを本演習の目的とする。	研究をデザインすることの意義が理解できる。栄養素の基礎を理解し、説明できる。食事調査結果から問題点の把握ができる。	◎	◎	○
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	スポーツ科学の研究分野で用いられる主要な測定法について実習を行い、データを取得し、データ処理、プレゼンテーション資料の作成を行うことができるようにする。実験計画からデータ取得、データ解析の過程を経験することにより、卒業研究を自力で進めるための力を身につけることを目指す。	身体の形態や機能を数値化するため、実験機材の使用法を身につけること。取得したデータを解析し、その意味を理解するとともに他者に対して説明できること。データの意味を解釈し、プレゼンテーションを行うことができること。	○	◎	
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	日本の武道(武術)および伝承的身体運動文化について、その研究の概略を考究し、各自の研究課題を決定する。中学校・高等学校で実務経験のある指導者が、実践をふまえた研究課題を提示する。	武道(武術)および伝承的身体運動文化に関する研究の概要を知るとともに代表的な文献に触れ、研究に取り組む能力を身につける。	◎	◎	○

専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	前期は、卒業研究論文を作成するための基礎知識を学習する。各種スポーツの特性と基本的な戦術行動について解説する。その中から各受講生の興味に応じた研究内容を探っていく。その上で、研究方法の手段について総合的に学習し、自らに取り組もうとしている課題の解決方法を習得する。後期は、主に前期の学習内容を基礎として卒業研究論文作成の具体的なテーマ選定及びその解決方法について知識を深め、資料収集について実習する。それらを理解した上で研究テーマとなる任意のスポーツ種目についての知識を深める。レポート作成やプレゼンテーションを通して卒業研究論文作成方法について総合的に学習する。	【前期の到達目標】任意のスポーツ種目を研究教材としての視点から特性を理解し複数の分析方法を使ってデータを収集することができる。資料(データ)整理の方法を理解し使うことができる。論文・レポートの構成を理解し、収集した資料(データ)をレポートにまとめることができる。 【後期の到達目標】卒業論文のテーマを選定し、その目的及び研究方法をプレゼンテーションできる。また、データ収集・データ整理の方法を理解し手順を計画することができる。	◎	◎	◎
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	前期のスポーツゼミナールでは、卒業研究作成の基礎構築を目的とする。スポーツを中心に据え、社会教育・生涯学習・スポーツ行政の視点から関連性をテーマに各自の問題意識を深めていく。具体的には各自のテーマ設定、研究方法、先行研究について講義、ゼミ生の調査、プレゼンテーション、討論を通して進めていく。後期のスポーツゼミナールでは本格的に卒業研究に取り組む。	①スポーツと社会教育・生涯学習・スポーツ行政の関連性を把握することができる。②スポーツを活用することによる社会の発展を構想することができる。③スポーツを活用することによる各自の構想を実践する見通しを持つことができる。④論文執筆に向けて、思考力や表現力を高めることができる。	◎	○	○
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	前期はスポーツ心理学の基本的知識を幅広く概観・学習し、各自の心理学領域における興味・関心を高めていく。具体的には課題図書の輪読を中心にしながら各自が概要をまとめ、自身の考えを織り込みながら互いに発表しあう。それにより自らの興味・関心を浮き彫りにしていくと同時に、論理的思考能力を養っていく。後期は前期で培った心理学のものの見方、事象の捉え方を基に各自が興味・関心のある原著論文を選択しレジュメにまとめて発表することにより、具体的な心理学的研究法について学んでいく。またディスカッションを通して、他人の考えを理解し自身の考えを深めていくことにより、論理的思考能力をより一層高めていくことを目指す。	【前期】1. 課題図書、文献の概要について簡潔にまとめることができる。2. 課題図書、文献の内容について理解するとともに自身の考えを述べることができる。3. 心理学的なものの見方、臨床的な事象の捉え方について理解し、自身の日常場面に取り入れることができる。4. 心理学領域における自身の興味・関心を述べるができる。 【後期】1. 自身の興味・関心に根拠した文献を探し出すことができる。2. 研究論文をレジュメにまとめ、その内容を理解し、他人にわかりやすく説明することができる。3. 文献購読を通して、心理学的研究の方法論について説明することができる。4. 心理学領域における自身の興味・関心を述べることができる。	◎	◎	◎
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	卒業研究を進めていく上で必要な基礎的能力を修得し、自身の卒業研究テーマの方向性を見出すことが、本演習のねらいである。具体的には、収集した資料について討論することにより専門分野への理解を深め、実験方法やデータ処理・評価方法を学習することをおし卒業研究テーマの方向性を明確にしていく。	①健康・体力関連分野の研究概要を知る。②実験方法に習熟する。(形態計測・身体組成測定法・血圧測定法・酸素摂取量測定法など) ③研究資料(専門書・研究論文)を収集できる。④資料の概要をまとめて、プレゼンテーションできる。⑤研究データを統計処理できる。⑥卒業研究テーマの方向性を示すことができる。	◎	◎	◎
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	本授業では、各専門科目においてアスリートのスキル及びパフォーマンス向上のために必要な基礎知識と科学的理論を学ぶことを目的とする。また情報収集、分析、効果的なフィードバック等、スポーツ現場におけるコーチング学、トレーニング科学を実践的に学ぶ過程でスポーツを支える側の役割や環境整備についても学習する。	各専門科目においてその競技特性、指導法、ゲーム分析方法について理解し、説明出来るようになる。またスポーツや運動を科学的に分析することを通して論理的思考力を身に付け発揮出来るようになる。	○	○	◎
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	プロバスケットボール選手としての経験を活かし、授業を展開する。スポーツ学演習では、バスケットボールを中心とした戦術・戦略を理解し、卒業研究に向けた基礎知識を学習する。授業は主に自分で調べた文献の内容を理解し、他の受講者に説明し、質疑応答を行う。研究の目的、進め方、文献検索、課題、問題点を明確にして発表できるようにする。	1)スポーツ科学の基礎的な研究に関わる能力を習得する。2)卒業研究に向けたテーマの探索。3)文献の内容を理解し、自身の考えを述べるができる。	○	◎	◎
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	アスレティックトレーニング領域を中心としたスポーツ科学に関する知識・技術を幅広く身につけることを目的とする。また、卒業研究に向けて研究手法や実験方法を学び、今後の研究計画を作成する。	アスレティックトレーナーやスポーツ指導者として必要な知識と技術を習得することが出来る。また、学びを通して研究課題を設定し、研究計画を作成することが出来る。	○	◎	○
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	スポーツゼミナール(前期)の目的は、卒業研究を進めていく上での基礎的能力を修得し卒業研究テーマの方向性を見出すことである。論文紹介やディスカッションを重ねることにより、対象とする分野の興味・関心・知識を深めていく。生理学を中心とした健康科学・スポーツ科学の研究を主な対象とする。	学術論文の作成に関わる知識を習得する。興味のある学術論文を取り上げ、その内容を理解することが出来る。興味のある学術論文を取り上げ、その内容を他者へ簡潔に伝えることが出来る。統計解析の手法を理解できる。卒業研究テーマの方向性を示すことが出来る。	◎	◎	◎
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	本授業におけるスポーツゼミナールでは、バレーボール競技を中心とした競技特性と基本的な戦術行動を解説し、自身の競技実践を通して競技力向上に関わる実態を把握し課題の解決に向けた実践研究的側面から考究する。	①バレーボール競技等に関する文献などの研究資料を収集できる。②収集した先行研究・資料をまとめることができる。③競技力向上における課題や問題点を明らかにすることができる。④バレーボール競技を研究教材として実践データを収集することができる。	◎	○	○
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	アスレティックトレーニング領域を中心に基礎的な理論習得と実践活動を通しての技術習得を目的とする。特に積極的な演習への参加を通じて、自身の活動からの学びを重視する。また、4年次の卒業研究論文作成の基礎的な準備として論文検索やデータ収集・処理の方法を学ぶ。その他、グループごとに立てた目的に対して実験(調査)、分析、発表を行い卒業研究に向けた予備学習を行う。	スポーツ指導者ならびにアスレティックトレーナーとして必要な知識と技術を習得することが出来る。また、学習を通じて自身の課題や目標を明確にする素養を身に付けることが出来る。	○	◎	○
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	スポーツ科学(サッカー)の分野に適した試合の録画・分析法を学ぶ。また、この分野での最先端の知識を身に着けるとともに、学術論文の書き方やプレゼンの方法を学習することを目的とする。	(1)サッカーの試合の録画・分析法を習得する(2)スポーツ科学(サッカー)の分野の最先端の知識を習得する(3)パワーポイントによるプレゼンの方法を習得する(4)学術論文の書き方を学習する	◎	○	○
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	4年次に行う卒業研究に向けて、研究の手法や発表の方法を学ぶとともに、先行研究を調べながら、自分の関心あるテーマについて深く掘り下げていく。心理学や教育に関わる領域を中心に、それぞれの研究の方向性を決めていく。	【知識・技能】自身が関心を持つテーマについて文献やデータを調べ、要点をまとめ、理解することができる。【思考力・判断力・表現力】先行研究を要約し、その内容を他者に伝えることができる。【主体性・協働性】関心のあるテーマについて自ら調べ、受講生同士で意見交換や協力をしながら、学ぶことができる。	○	◎	◎

専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	本授業では、水泳を中心とした科学的サポートや体力測定の方法とその分析方法を学び、4年生における卒業研究に向けた基礎知識を得ることを目的とする。	1. 科学サポート・体力測定法・分析法を習得する。2. 分析したデータについて考察することができる。3. 各自興味のある分野について資料を収集する。	○	○	◎
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	卒業研究に取り組むにあたって求められる基礎知識の習得を目指し、実践現場(コーチング、トレーニング)に活かすことのできる人材育成を目的とする。研究領域は、コーチング論・トレーニング学である。ここでは、自身のコーチング・トレーニング実践を通して感じた①素朴な疑問を見つけ、②その疑問の実態を把握し、③疑問に対する仮説を考え、④仮説を立証する⑤研究方法を調べることができるようになることを求める。また、小論文トレーニングを行い、論文を書く力を養成する。	① コーチング論・トレーニング学に関連する先行研究・資料を収集できる。 ② 収集した先行研究・資料をまとめることができる。③ トレーニング実施上の課題や問題点を明らかにすることができる。	○	◎	○
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	・発生運動学の知見に基づく体操競技や実技授業における指導実践の知見を踏まえて指導を行い、以下の通りに授業を展開する。 【1～15回目】研究を進める上での理論的基礎となる発生運動学の概要について学習する。 【16～30回目】運動習得、運動修正の発生運動学的な分析方法について理解する。	【1～15回目】①収集した先行研究について要訳することができる。②発生運動学の基礎的概念について事例を上げて説明できるようになる。 【16～30回目】①運動学的分析方法を個別運動学に置き換えて説明できるようになる。②身体知について事例を上げて説明できるようになる。	◎	○	
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	卒業研究(陸上競技の中でもフィールド種目・投擲競技4種目-砲丸投・円盤投・ハンマー投・やり投-を中心とした分野)に取り組むにあたり、陸上競技の特性や基本的な競技力向上に関わる動作やトレーニング・コーチングについての先行研究を抄読し、理解を深める。またスポーツ科学で解明されている先行研究と現場のコーチングや競技者の意識や感覚の違いを調査し、理解する。	(1)スポーツ科学の基礎的な研究に関わる能力を身に付ける。(2)投擲映像を見ながら、自身の投擲技術について他者に解説することができる。(3)投擲競技に関する文献などの研究資料を収集できる。(4)収集した研究資料をまとめて、自身の興味のある論文テーマの方向性を示すことができる。	◎	◎	○
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	4年次に取り組む卒業研究に向けて、スポーツ政策・社会学・マネジメント分野での研究・発表方法を学ぶ。これまで企業外労働衛生機関のトレーナー業務(7年)やスポーツNPO法人の代表理事(20年)、日本スポーツ協会が推進する総合型地域スポーツクラブのクラブアドバイザーを福岡県体育協会に従事(15年)した経験などを活かし、幅広い視野で指導を行う。	・自身に興味のあるスポーツ分野を社会現象として客観的に捉える・その現象が研究分野としてどのように探究されているかを調べる・その情報を理解し、プレゼンテーションをしながら、他人と共有する・そこからさらに自身の興味を高め、次年度の研究材料を見つける・論文作成の方法論について学ぶ	○	◎	○
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	前期は、卒業研究に向けて、文献・資料の集め方、レジュメ・レポートの作成方法などの基礎的な技法を学んだ後、相互に学びあうグループ討議を行うほか、調査した結果をまとめ発表する。後期は、各自の関心領域に応じた研究を文献調査等により行い、卒業論文のテーマ設定や研究計画を立てる。	・論理的に思考し分析する能力や、課題解決に向けた提案能力を高める。・政策課題について関心を持ち、関心のある分野について俯瞰的に見ることができる。・研究計画を立て、卒業論文執筆に向けた準備ができている。	○	◎	○
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	授業(保健体育)やコーチングの現場において、教師・指導者は生徒・選手に対して様々な指導やアプローチを行っている。このことから教師・指導者について様々な観点から分析を行い、指導現場に活かすことが重要である。本演習では、保健体育科教員や部活動指導者の現状や問題点を明らかにし、教員や指導者に必要な資質や能力など、指導現場に必要な要素について理解を深めることを目的とする。	・興味のある分野の資料を収集することができる。・収集した資料をまとめ、現状や問題点をまとめることができる。・論理的なプレゼンテーション・ディスカッションができるようになる。・WordやExcel、PowerPointの基本的な操作ができるようになる。	◎	◎	◎
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	学校体育を中心とした諸問題や、体育授業の観察評価方法、教材開発の手法等を学び、4年生における卒業研究に向けた基礎知識を得ることを目的とする。	1. 学校体育を中心とした諸問題を理解し、各自で問題設定しプレゼンできる。2. 体育授業の観察評価方法を習得し、実際の体育授業や模擬授業を観察評価、考察できる。3. 体育授業における教材を提案し、学習効果を考察できる。	◎	○	○
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	スポーツ現場でアスレティックトレーナーとして選手のリコンディショニングや安全管理を行った経験を活かし、現場力のあるアスレティックトレーナーを育てるために実践形式で授業を行う。①アスレティックトレーナーに必要なヒューマンスキルやトレーナーの知識やスキルを身に付けた社会人を育てる。②学生アスレティックトレーナーとしての実践的な活動を通して疑問や課題をみつけ、それらの解決に向けた情報収集や調査、実験を行う。③4年次の卒業研究に向けて必要な研究方法、発表方法などを学ぶ。	①アスレティックトレーナーとしての必要なヒューマンスキルを身につけることができる。②様々な現場でアスレティックトレーナーの知識やスキルを使うことができる。③学生アスレティックトレーナーとしての活動を通して疑問や課題を見つけることができ、それらの解決のために必要な研究方法を実践できる。	◎	◎	◎
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	4年次に取り組む卒業研究に向けて、体育・スポーツ科学分野、特に学校教育現場の事象に関わった様々な研究・発表方法を学ぶ。自身の興味のある分野に関する情報収集を行い、プレゼンテーションする能力を高める。	自身の興味のある分野、スポーツ科学に関する分野で、どのような研究が行われているかを学ぶ。また、文献や、各種データ収集方法について、自身で調査し、検索する能力を高める。さらに、自身の意見を発表し、他人とのディスカッションを積極的に行う能力を高める。	◎	◎	◎
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	本ゼミナールでは「保健の授業」あるいは「学校保健」をテーマとし、卒業研究を行っていくうえで基礎的な知識の理解を目指します。なかでも、中学校・高等学校における「保健の授業」の動向・具体的な研究例を通して、調べてみたいことや検証したいことを発見し、それを検証・報告するためのスキルを学びます。	①「保健の授業」や「学校保健」について、基本的な事項を理解できること②基本的な事項を踏まえて、自分自身で検証したい問いを見つけられること③自分が持つ問いを検証するために必要な手段を理解できること④自分自身で明らかにできたことをプレゼンテーションでできること	○	◎	◎
専門 演習 科目	卒業研究	4年生	通年	スポーツの世界において競技者の競技能力向上や傷害予防の立場から、体力や運動能力に関する様々な測定が行われるようになった。本演習では科学的サポートを行うための基礎として、筋力やパワーの測定法を享受しながら、到達目標を達成できるよう授業時間外においても継続的に指導、支援する。	○ 実験に必要な機器を自由自在に扱うことができるようになること。○ 分析ソフト(キネアナライザー)で多様な分析ができるようになること。○ 仮説に基づいた論理的な検証、思考ができるようになること。○ 卒業論文の作成を通して体系的、理論的な思考ができるようになること。	◎	◎	◎

専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	大学生生活の授業で学んだことを元に、スポーツゼミナールで考えた自らの課題に対し、具体的なテーマを決定し、先行研究を行い、課題解決に応じた方法を用い分析を行う。後半は前の15回の卒業研究で取り組んだことを元に、自らの課題解決に向けた論文執筆を行う。さらに、完成した論文を端的に発表できるようプレゼンテーションの準備を行う。種々の取り組みは、各回の授業時間だけで終わらせることは難しいため、予復修課題としても資料の収集等、各自の進捗状況に応じて総じて毎回240分程度を目安に、授業外での取り組みを行うこと。	1 教育事象、指導方法等、各自の経験から課題を見出し、研究テーマの立案ができる。2 考えた研究テーマの解決のための先行研究やそれに向けた研究計画を立てることができる。3 研究計画にもとづき各種のデータを取得し、それらを分析することができる。4 立案した研究テーマを研究計画にしたがい論文にすることができる。5 卒業論文をまとめ、誰しもが理解できるようにプレゼンテーション資料にまとめることができる。6 作成したプレゼンテーションを発表することができる。	◎	◎	◎
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	本授業は、自ら考えたテーマに基づいて調査あるいは実験を行ない、得られたデータをもとに自らの考えを導き出し、論文として纏め上げ、また口頭あるいはポスターによる発表を経験する。また、毎回の授業で進捗状況の報告とディスカッションを行います。	1.研究研究を計画しデータの収集ができる。2.研究内容を論文にまとめ上げることができる。3.研究発表会でプレゼンテーションができる。	◎	◎	◎
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	スポーツゼミナールで学んだ知識・技能を基に、自らの研究テーマを論文にまとめ発表する。	①自らの研究テーマを科学的な方法に従い研究論文にまとめることができる。②論文を明快且つ簡潔に発表することができる。	◎	○	○
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	3年次のスポーツゼミナールを通じて学んだことを土台として、研究テーマに沿って調査および解析を進めていく。その流れの中で関連する分野(統計学など)の学習も深めていく。他者の研究内容についても関心を持ち、自らのテーマに応用できそうな項目を見出す。論文を完成させること、研究発表用資料の作成を行う。他者の研究内容に質疑をできるように、幅広い学びを行う。	①テーマ設定の合理性を説明できる②論文骨子の構築の妥当性を説明できる③どこまでを明らかにしようとするのかについて説明できる④先行研究との関連性について説明できる⑤論文の作成ができる⑥発表用資料の作成ができる⑦一般の人が聞いても理解できる表現ができる	○	◎	○
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	スポーツゼミナールの内容を元に研究計画を立案する。計画に基づき調査等を行い、必要に応じてデータ処理を行う等して論文に仕上げていく。	研究論文の構成を正しく理解し、自らのテーマを研究論文にまとめることができる。研究成果をプレゼンテーションできる。	◎	◎	○
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	スポーツ学演習で学んだ研究計画、実験、データ分析の手法を用い、自らテーマを設定し、卒業論文を作成することを目指す。本演習では研究テーマの設定、文献収集、調査・データ収集、データ分析、論文執筆の一連の過程を独力で成し遂げられるようにする(共同研究は原則として行わない)。	卒業研究のテーマ設定において研究課題の問題点を説明できること。データ収集のための実験を自らの力で遂行することができる。データを分析し、適切な図表にまとめることができる。論文作成に関わる形式、内容を覚え、適切な文章を書くことができる。自ら設定した研究テーマについて、その意味や意義を他者に説明することができる。	○	◎	
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	スポーツゼミナールで学んだ知識や技能を基に、研究テーマを決め論文を作成する。中学校・高等学校で実務経験のある指導者が、実践をふまえた研究方法を指導する。	1. 史資料の収集法を学び実践できる。2. 収集した史資料を基に、論文を構成することができる。3. 構成を自ら考え、考察し論文を作成することができる。4. 研究成果をまとめ、発表することができる。	◎	◎	○
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	スポーツゼミナール(前期)・(後期)で習得した研究の手順及び手法を基礎にして研究を進め、自ら定めた研究課題に関して分析・検討・考察を行い、研究を深めていく。また研究テーマ・論文構成(章立て)・研究方法などについて、毎週の授業での発表と合評を踏まえ各自の論文作成の進捗状況を確認していく。	①研究テーマの設定、論文構成(章立て)、研究方法等について深めることができる。②見直しをもって、着実に研究を進めることができる。③毎週の授業での発表と合評で研究内容をより充実させていくことができる。	◎	○	◎
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	研究の進め方の基礎を学ぶ。具体的には、各自の卒業論文作成のための計画を立て、それに基づく資料収集、実験・調査の計画と実施、データ処理、論文作成とそのプレゼンテーションである。また、報告会を実施、討論を繰り返すことにより、卒業研究の質を高めていく。	①卒業論文作成の計画(スケジュール)を立てることができる。②論文作成に必要な資料(文献等)を収集し、整理することができる。③実験・調査計画を立てることができる。④的確なデータ処理ができる。⑤卒業論文を作成し、プレゼンテーションすることができる。	◎	◎	◎
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	プロバスケットボール選手としての経験を活かし、授業を展開する。卒業研究では、スポーツゼミナールで得た知識をもとに卒業研究に向けたテーマを具体化にして、予備実験を実施する。また研究テーマをもとにプレゼンが実施できる知識を身につける。	I)論文の構成II)研究テーマを題材にしてプレゼンテーションIII)研究結果を考察して論文に出来る	○	◎	◎
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	3年次までに学んだスポーツ心理学に関する知識を総合して、各自の興味関心のあるテーマに沿った卒業論文の作成及び、口頭発表の方法について習得する。スポーツゼミナールで学んだ基礎知識を活かし、資料の収集や調査、パーソナリティの分析や心理学実験による解析、メンタルトレーニングの実践など、スポーツ事象への心理学的アプローチを通して、研究成果をまとめ論文として完成させる。	1.研究論文の作成手順を理解し自らの関心に沿った研究テーマを設定することができる。2.テーマを探索するための研究計画を立て、実行することができる。3.探求した内容について、研究論文としての体裁を整えて作成することができる。4.自身の研究内容について、わかりやすくプレゼンテーションすることができる。	◎	◎	◎
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	スポーツゼミナールの内容を踏まえ、アスレティックトレーニング領域を中心とした研究テーマを各自で設定し、調査・実験・考察を経て論文作成を行なう。また、作成した論文の内容をプレゼンテーションする技術を学ぶ。	各自で設定した研究テーマに関する調査や実験を行い、その成果を論文にまとめることができる。また、その研究成果を発表するためのプレゼンテーション資料を作成し、他者に伝える技術を身につけることを目標とする。	◎	◎	○
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	スポーツゼミナールで学修した知識と手法をもとに自ら研究テーマを設定し、論文を作成する。また、中間発表及び卒業論文発表会へ向けてプレゼンテーション能力を養う。	1. 設定した研究テーマに基づき調査を実施できる。2. 研究結果を整理し、論文を作成できる。3. 作成した論文をプレゼンテーション資料にまとめ、発表できる。	○	○	◎
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	データ収集・分析を経て、卒業論文を作成し、それをパワーポイントにまとめた後、プレゼンテーションを行う。	(1)学術論文の作成方法を習得する(2)パワーポイントを使用した学術的なプレゼンテーションを行うことができるようになる	○	◎	○
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	スポーツゼミナールの学習内容を踏まえ、バレーボール競技の特性や基本的な競技力向上について研究を展開していく。研究指導を通して先行研究の文献抄読からコーチングや方法学に関する知識を深め、調査、分析、考察を行う。これらを卒業論文にまとめ、卒業研究発表会に向けてプレゼンテーションにまとめる。	①バレーボール競技等に関する文献などの研究資料を収集できる。②収集した先行研究・資料をまとめることができる。③競技力向上における課題や問題点を明らかにすることができる。④バレーボール競技を研究教材として実践データを収集することができる。⑤スポーツ科学の基礎的な研究に関わる能力を身につけることができる。	◎	◎	○
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	スポーツゼミナールで学習した知識と手法を基に自ら研究テーマを設定し、論文を作成する。また、中間発表会及び卒業論文発表会へ向けてプレゼンテーション能力を養う。	1. 各自で設定した研究テーマを基に実験(調査)を実施する。2. 研究結果を整理し、論文を作成する。3. 作成した論文を基にプレゼンテーション資料を作成する。4. 卒業論文発表会にてプレゼンテーションできる。	○	○	◎

専門 演習 科目	卒業研究	4年生	通年	スポーツ・ゼミナールの学習内容を踏まえ、コーチング・トレーニング論領域に関する研究テーマを設定し、調査・実験・分析・考察を行う力を養成する。また、これらを卒業論文にまとめ、内容を卒業研究発表会に向けてプレゼンテーションにまとめる力を養成する。	① 研究計画書を作成することができる② 卒業論文を作成することができる③ テーマに関する先行研究をまとめることができる④ 適切な研究方法を用いてデータを収集・分析することができる⑤ 卒業研究を発表することができる	◎	○	○
専門 演習 科目	卒業研究	4年生	通年	・スポーツゼミナールで学習した内容を基に、個々の研究テーマに応じた専門性の高い内容へ発展させる。・発生運動学の知見に基づく体操競技や実技授業における指導実践の知見を踏まえて指導を行い、卒業論文を完成させる。研究の核となる内容についてまとめて発表できるようにする。	・自身の研究テーマの拠りどころとなる研究方法論について理解し、研究の独自性と正当性を説明できる。・研究内容の独自性と限界について検討し、研究の独自性を主張できるようになる。	◎	○	
専門 演習 科目	卒業研究	4年生	通年	3年次までに学んだ陸上競技（特にフィールド競技・投擲競技4種目-砲丸投・円盤投・ハンマー投・やり投を中心とした運動法・トレーニング・コーチング）の特性や基本的な競技力向上について研究を展開していく。この科目では、論文講読、研究指導を通して、方法学・コーチングに関する知識を深め、文献のまとめ方や学外調査や測定の方法、結果の分析方法、得られた結果のプレゼンテーション方法などを修得する事を目的とする。また、報告会の実施、討論を繰り返すことにより、卒業研究の質を高める。	(1)スポーツ科学の基礎的な研究に関わる能力を実践できる。(2)投擲映像を見ながら、自身の投擲技術について他者に解説することができる。(3)投擲競技に関する文献などの研究資料を収集できる。(4)収集した研究資料をまとめて、自身の興味のある論文テーマの方向性を説明できる。(5)実験やアンケートで得た結果を的確なデータとして処理ができる。(6)研究論文や発表資料を分かりやすく作成することができる。	◎	○	
専門 演習 科目	卒業研究	4年生	通年	スポーツゼミナールで学んだ手法、知識を活用して卒業研究に取り組む。自ら研究テーマを選択し、実験や測定、調査に取り掛かり、卒業論文を完成させる。これまで企業外労働衛生機関のトレーナー業務(7年)やスポーツNPO法人の代表理事(20年)、日本スポーツ協会が推進する総合型地域スポーツクラブのクラブアドバイザーを福岡県体育協会で従事(15年)した経験などを活かし、幅広い視野で指導を行う。	・自身のテーマを、科学的手法に沿って、分析できるようになる。・自身のテーマを、客観的かつ具体的に説明できるようになる。・他人の研究に対して、客観的かつ具体的な意見を伝えることができる。	○	◎	○
専門 演習 科目	卒業研究	4年生	通年	各自の研究テーマに基づいて研究を進めます。関心領域に応じた事例研究を、文献調査やヒアリング調査等により行い、卒業論文の作成に取り組みます。	・研究テーマ、研究計画に基づいて、調査を行い、論文としてまとめることができる。・グループ内の他の学生の発表から学び、かつ適切な質問ができる。・卒業研究について、わかりやすくプレゼンテーションができる。	○	◎	○
専門 演習 科目	卒業研究	4年生	通年	スポーツゼミナールで学んだ手法・知識を活用して卒業研究に取り組む。研究テーマを選択し、データの収集、論文執筆を行う。	・研究テーマを設定し、科学的手法に沿って分析できるようになる。・論文の構成を覚え、文章を書くことができる。・自身の研究内容を発表するためのプレゼンテーション技能を身につける。	◎	◎	◎
専門 演習 科目	卒業研究	4年生	通年	アスレティックトレーニング領域を中心とした研究テーマを各自で設定し、スポーツゼミナールで学んだ研究方法や実験方法を用いて論文作成を行う。また、自身の研究内容を分かりやすくプレゼンテーションする技術を学ぶ。	各自で設定した研究テーマに関する調査や実験を、自らの力で遂行することができる。研究成果を論文としてまとめることができる。研究成果を発表するためのプレゼンテーション資料を作成し、他者に分かりやすく説明することができる。	○	◎	○
専門 演習 科目	卒業研究	4年生	通年	スポーツゼミナールで学んだ手法、知識を活用して卒業研究に取り組む。自らの研究テーマを絞り込み、調査や実験の計画・実施を行う。卒業論文作成に向けて、論文の骨子を作成する。	【知識・技能】自身が関心を持つテーマについて文献やデータを調べ、要点をまとめ、理解することができる。【思考力・判断力・表現力】先行研究を要約し、その内容を他者に伝えることができる。【主体性・協働性・関心のあるテーマについて自ら調べ、受講生同士で意見交換や協力をしながら、学ぶことができる。	◎	◎	◎
専門 演習 科目	卒業研究	4年生	通年	スポーツ現場でアスレティックトレーナーとして選手のリコンディショニングや安全管理を行った経験を活かし、スポーツ現場で活かせる論文の読み方や実験の方法を実践形式で行う。①アスレティックトレーニング領域に関する研究テーマを各自で設定し、調査や実験を経て論文作成を行う。②自身の行った研究についてわかりやすくプレゼンテーションする技術を学ぶ。	①各自で設定した研究テーマに関する調査や実験を行い、その成果を論文にまとめることができる。②研究成果を発表するためのプレゼンテーション資料を作成し、他者に分かりやすく伝えることができる。	◎	◎	◎
スポーツ 実 技 科 目	体操(体づくり運動を含む。)	1年生	前・後	体操(体づくり運動)は、体ほぐしの運動と体力を高める運動で構成されている。教員としての指導実践の知見をベースにして授業を展開し、自他の心と体に向き合って体を動かす楽しさを味わい、心と体をほぐす運動や体力を高めるための運動の行い方を理解できるようにする。	1.目的に合った基本的な運動が指導できる。2.ラジオ体操、ストレッチ体操の運動効果について説明ができる。3.2人組、グループでお互いに工夫・協力して運動を楽しむことができる。	◎	○	○
スポーツ 実 技 科 目	器械運動	2年生	前・後	器械運動(マット運動、跳び箱運動、鉄棒運動、平均台運動)の技の基本技術と指導法について学習する。それぞれの技の運動構造を理解し、系統的・段階的に技を習得していく。また、安全に配慮し練習環境の工夫や補助法についても正しく理解する。	1.各種目の基本技ができるようになる。2.それぞれの技の基本技術を理解する。3.補助法について理解し、適切に実践できるようにする。	◎		○
スポーツ 実 技 科 目	陸上競技A	1年生	前・後	「陸上競技」は、「走る」「跳ぶ」「投げる」などの運動で構成され、記録に挑戦したり、相手と競争したりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。人間にとって単純な動作に見える走・跳・投にも、速く走る、速くに跳ぶ、速くに投げるための原理・原則が存在する。本授業においては、短距離走、ハードル走、走り幅跳び、の各種目を取り上げ、その技能を高めるとともに、より良い動作の原理・原則を理解し、初心者指導法を学習する。	① 実施する各種目の技能(記録)を一定水準まで身に付けることができる。② 実施する各種目の技能を高める方法を理解し、記録に挑戦できる。③ 実施する各種目の初心者指導法を理解し、説明することができる。	◎	◎	○
スポーツ 実 技 科 目	陸上競技B	2年生	前・後	「陸上競技」は、「走る」「跳ぶ」「投げる」などの運動で構成され、記録に挑戦したり、相手と競争したりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。人間にとって単純な動作に見える走・跳・投にも、速く走る、速くに跳ぶ、速くに投げるための原理・原則が存在する。本授業においては、やり投げ(ジャベックスロー)、走り高跳び、砲丸投げの各種目を取り上げ、その技能を高めるとともに、より良い動作の原理・原則を理解し、初心者指導法を学習する。	①実施する各種目の技能(記録)を一定水準まで到達させる。②実施する各種目の技能を高める方法を理解し、記録に挑戦できるようにする。③実施する各種目の初心者指導法を理解し、説明できるようにする。	◎	◎	○
スポーツ 実 技 科 目	水泳	2年生	前・後	クロールおよび平泳ぎを中心に、続けて長く、または速く泳ぐための基本的技術および知識を習得する。水の特性を知り、水中で効率的に推進力を得る方法について、実技だけでなく視覚的教材を用いて理解を深める。さらに、基本的な泳法と水の特性に関する知識を応用して、水中・水上における事故防止のための安全管理についても紹介する。	①クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライの4泳法を習得する。②水上安全に関する知識を高める。③速く泳ぐことについては50mクロールと50m平泳ぎを対象とし、男子でクロール50秒以内、平泳ぎ65秒以内、女子でクロール55秒以内、平泳ぎ70秒以内を目標とする。④長く泳ぐことについては3分間泳を対象とし、男子で150m以上、女子で130m以上を目標とする。	◎	○	○

スポーツ実技科目	バスケットボール	1年生	前・後	プロバスケットボール選手としての経験を活かし、授業を展開する。バスケットボールにおける基礎技術であるシュート、パス、ドリブル)を学習する。また、基礎技術の習得とともに集団技術(防御から攻撃、攻撃から防御)を学習する。そのためには、バスケットボールのフォーメーション(スクリーンプレー、ポストプレー、ナンバープレー)を学習し、バスケットボールにおける特性を理解しながら各ポジション(ガード、フォワード、センター)に分けてゲームを通じて理解を深めて学習する。	1. バスケットボールの技術特性およびボールを扱う楽しさや相手との 駆け引きの楽しさを学習しながら基礎技術を習得できること。2. 学校教育および社会教育の現場においてバスケットボールの指導するにあたり必要な基礎的な知識、技術を習得できること。3. 個々の技術を上げるための練習方法、チーム戦術を習得し指導方法を学ぶ。	◎	○	◎
スポーツ実技科目	バレーボール	2年生	前・後	バレーボールは、競技スポーツとしてだけではなく生涯スポーツとしても広く親しまれ、ラリーゲームを通して高いコミュニケーション力が必要であることを理解し、他者との情報を共有しながら競技する重要性を学習する。また、バレーボールを実践する上で、必要な体力や動作分析を行い、運動の分析や観察力を養う方法についても学習する。	①バレーボール実践について初心者に教育的な原則を段階的に実技指導ができる。②他者との関わり合う技能を高め、チームで連携する技術を学び実践できる。③競技スポーツ、生涯スポーツとしてバレーボールの特徴を理解し、実践できる。	○	◎	◎
スポーツ実技科目	サッカー	1年生	前・後	本授業では、サッカーの技術や戦術の特性およびボールを扱う楽しさや、相手との駆け引きの楽しさを学習しながら、サッカーに必要な技術(多種のパスやシュート、ドリブル)や戦術的要素(守り方や攻め方)を習得し、その中で体力の向上を図る。さらには、サッカーにはコミュニケーションやチームワークが不可欠であることを理解し、互いに協力して練習やゲームを進めていく中で、リーダーシップやスポーツマンシップの向上を目指す。	1)サッカーの基礎的技術を習得し、試合中に使えるようになる 2)サッカーの守り方や攻め方を含めた戦術を理解する	◎	○	○
スポーツ実技科目	サッカー	1年生	後	本授業では、サッカーの技術や戦術の特性およびボールを扱う楽しさや、相手との駆け引きの楽しさを学習しながら、サッカーに必要な技術(多種のパスやシュート、ドリブル)や戦術的要素(守り方や攻め方)を習得し、その中で体力の向上を図る。さらには、サッカーにはコミュニケーションやチームワークが不可欠であることを理解し、互いに協力して練習やゲームを進めていく中で、リーダーシップやスポーツマンシップの向上を目指す。	1)「止める」、「蹴る」、「運ぶ」の基本的技術を実践できるようになる。2) 個人戦術、グループ戦術の基本を理解することができるようになる。3) 基本的なルールを理解し、説明できるようになる。	◎	◎	○
スポーツ実技科目	ハンドボール	3年生	前	ハンドボールは「走・跳・投」からなっており、これらを支える基礎体力の養成に十分役立つ教材である。また、比較的小さなボールを器用な手で扱えるため、誰でも容易にプレーできる特徴を持っている。 本授業では、ハンドボールの歴史・特性・ルール及び審判法を実技の中で概説し、ゴール型ボールゲームとしての攻撃方法及び防御方法を指導する。	・ボールの扱いやパス、シュートといった基本技術を習得する。・基本技術をコンビネーションプレーへと応用できる。・ルールを理解し、ゲームに応用できる。	◎	○	○
スポーツ実技科目	ラグビー	3年生	前	ラグビーW杯2019日本大会において日本代表は予選プールを4連勝し、史上初のベスト8で大会を終えた。急成長を遂げる日本ラグビーは今や全世界からも注目される存在となった。日本ラグビーフットボール協会は、Development Program, Elite Program, Top Programの3つの指導プログラムの必要性を提唱しているが、カテゴリーやコンテキストにおけるコーチングの目的達成に向けて、一貫した指導が必要である。そこで本授業では、ラグビーの競技特性を理解し、パス、ラン、キックなどの基本動作を習得し、様々な状況に応じたプレー選択へと発展させ、実践的なスキル獲得のための指導法についても学んでいく。	ラグビーの基本動作を習得し、ゲームで活用出来るようになる。またポジションや役割を理解し、主体的に物事を考え、状況判断しプレーに参加出来るようになる。段階的指導法を実践的に学ぶ過程で、自らの技術向上と実践的指導力を身に付ける。	○	○	◎
スポーツ実技科目	ソフトボール・野球	3年生	後	ソフトボールは投げる、打つ、走る、捕るなどの基本的運動が多く含まれるスポーツである。本授業では、ソフトボールの基本的な技術や戦術を説明し、その練習方法を紹介する。また、ゲームを通して、そのゲーム場面で起こる種々のプレイを実践展開する。	ソフトボールの基本的技術や戦術、練習方法を習得すること。集団競技として積極的に他者との関わりを持てるようになること。	◎	○	○
スポーツ実技科目	テニス	3年生	前・後	担当教員は、テニスプレーヤーとして多くの大会に出場した。この経験を元に競技レベルの実技解説と、初心者へむけた技術指導を行う。テニスは、複数の打法を組み合わせてゲームを楽しむスポーツである。従って、多数の動作を習得する必要がある、動作の分析や運動の仕組みを学習する。また、対戦相手が必要な競技特性から強度のコントロールを学ぶ必要がある。テニスを通じたコミュニケーション及び仲間との協調性も学び、生涯スポーツとしてテニスを続けられる技術習得を目指す。	本授業では、テニス技術を習得し、シングルス、ダブルスとテニスのゲームが出来るように学習する。1テニス打法の習得、テニス動作の原則を理解すること2ルールを理解し、審判行為が出来るようになること3生涯スポーツであるテニスの魅力を理解し、健康促進につながることを理解すること4仲間とのコミュニケーションをとり、協調性を学ぶこと	◎	◎	◎
スポーツ実技科目	バドミントン	2年生	前・後	バドミントンは生涯スポーツに適した種目の一つであり、学校体育の中でも盛んに取り入れられている。本授業は、バドミントンの基本的な技術の向上を図り、競技の特性および基本的な攻撃・防御の方法の習得を図る。また、戦術やルールについて理解し、中学や高校における体育授業の実践を念頭に置いた初心者指導について学ぶ。教員としての経験を活かし、授業を展開する。	①バドミントンの特性を理解し、説明できる。②基本的技術や練習方法、ゲームにおける攻撃・防御の方法を実践できる。③戦術やルール・マナーについて理解し、ゲームを楽しむことができる。④一連の技術指導や試合の運営方法を実践できる。	◎		
スポーツ実技科目	ダンス	2年生	前	ダンスは身体運動による表現であり、身体を通して自己の内なる感情を表現したりイメージや創造性を創造性を深めることで、心豊かな人間形成につながっていくねらいがある。また音楽(リズム)に合わせて全身を動かすことでの爽快感や楽しさを味わい心身を解放していくことはストレスを分散し、“心の健康”に大きく関連してくる。本授業では多様な動きを体験し、自己の身体の動きの要素を広げていくこと、習得した動きや新しく創造した動きを基にダンス創作を行い相互に発表しあうことで、ダンスを通して他者との関わりを深める。	1. 音楽に合わせて自由にのびのびと身体を動かすことができる。2. さまざまな種類のダンスの基本的な動きを習得する。3. ダンス作品を工夫して創作し、発表することができる。4. 他のグループの作品を鑑賞し評価することができる。	◎	○	○

スポーツ実技科目	ダンス（再）	3年生	前	ダンスは身体運動による表現であり、身体を通して自己の内なる感情を表現したりイメージや創造性を創造性を深めることで、心豊かな人間形成につなげていくねらいがある。また音楽(リズム)に合わせて全身を動かすことでの爽快感や楽しさを味わい心身を解放していくことはストレスを発散し、“心の健康”に大きく関連してくる。本授業では多様な動きを体験し、自己の身体の動きの要素を広げていくこと、習得した動きや新しく創造した動きを基にダンス創作を行い相互に発表しあうことで、ダンスを通して他者との関わりを深める。	1. 音楽に合わせて自由にのびのびと身体を動かすことができる。2. ささまざまな種類のダンスの基本的な動きを習得する。3. ダンス作品を工夫して創作し、発表することができる。4. 他のグループの作品を鑑賞し評価することができる。	◎	○	○
スポーツ実技科目	剣道	2年生	前・後	日本の代表的な身体運動文化である剣道の特性を理解し、伝統的な修練により正しい剣道の学び方や指導法を習得する。さらに、合理的身体操作の観点から剣道技術をとらえる着眼点を身につける。中学校・高等学校の保健体育授業で「剣道」の指導経験のある教員が、現場に即した指導法を教授します。	剣道を正しく学ぶことによって、技能の向上だけではなく、指導法、審判法、そして礼法などを体得する。	○	○	◎
スポーツ実技科目	柔道	2年生	前・後	柔道の理念である「精力善用」「自他共栄」について理解したうえで、授業を行う。柔道に必要な基本動作(礼法、姿勢、受け身、進退動作、崩しなど)、投げ技(手技、腰技、足技)、固め技(抑え技)の習得に取り組む。また、武道必修化に対応できるように、柔道の授業を安全に行うための指導法や審判規定、審判法についても解説する。	柔道の理念である「精力善用」「自他共栄」について理解し、説明できるようになる。礼法、姿勢、受け身、進退動作、崩しなどを理解し、投げ技につなげることができる。受け身については、事故・ケガの予防の観点から自在に受け身をとれるようになる。投げ技と固め技については、安全に自由練習ができるようになるだけではなく、中学校・高等学校において授業を行うことができる技能を身につけられるようになる。審判規定を理解し、審判ができるようになる。	○	◎	○
スポーツ実技科目	レクリエーション実技	3年生	前	様々なレクリエーション活動を実施し、その楽しさを体験することを通じて、コミュニケーションの促進や活動を効果的に展開するための方法、対象に合わせた内容のアレンジ方法などを学習する。こうした学習内容を踏まえて、レクリエーション活動の指導プログラムを立案、実施出来るようになることを目指す。	①レクリエーション活動の楽しさを体験、共有することができる。②レクリエーション活動の基本的な展開方法を習得する。③対象や目的に合わせたレクリエーション活動プログラムを立案・実施することができる。	○	◎	◎
スポーツ実技科目	エアロビックダンス	2年生	後	エアロビックエクササイズ(有酸素運動)は生活習慣病の予防・改善に有効であるとされる運動形態であり、その中でもエアロビックダンスは特にトータル的な身体づくりの運動としてこれからますます重要視されてくる運動形態です。本授業では、現代を取り巻く健康問題をヒントに、その改善対策としての運動の位置付けを理解し、エアロビックダンスの特徴やその有効性、今後の可能性を学んでいきます。エアロビックダンスの良さを体感しながら、音楽を活用したエクササイズの指導ができるようになるための技能を習得していきます。	エアロビックダンスの基本となる動作を習得し、正しく動くことができる。身ぶり・手振り・声かけなど指導者として必要とされる指導技能を習得する。エアロビックダンスの楽しさを知ることができる。エアロビックダンスベーシックインストラクター(ADBI)資格取得に向けたスキルを身につけることができる。	◎	○	○
スポーツ実技科目	キャンプ	全学年	前	恵まれた自然環境と施設の中で、キャンプ指導者としての自然におけるマナーや人との関わり、野外活動の基礎から応用を体得し、さらに指導・立案・計画方法等や、さまざまな指導場面での実践方法を学ぶ。担当者(梨羽・花田・後藤平)	①キャンプの意義や目的および技能を理解し、説明・実践することができる。②自然と人との関係、指導者の役割および安全管理について理解し、説明・実践できる。③対象に応じたキャンププログラムの企画・運営・評価のあり方を理解し、説明・実践できる。④キャンプの基礎技術・応用技術を理解し、説明・実践できる。	◎	◎	○
スポーツ実技科目	マリンスポーツ（水上）	全学年	前	現代の日本社会において、子どもの発育発達段階における体験活動の重要性や多様な生涯スポーツ種目へのニーズが高まっている。それらの社会的ニーズに対応するため、まずは自分自身が海洋および水辺活動を楽しむ安全に楽しめるように、基礎的知識と技術と身につけることを目標として「到達目標」に記載内容を実施する。担当者(船津・山口)	○海岸より出だし、目標物を回航して戻ってくる技術を習得する。○海洋スポーツを安全に実施、指導する際のスキルを身につける。○野外スポーツに必要な天候による実施(活動)の是非に関する判断能力を身につける。	◎	◎	◎
スポーツ実技科目	マリンスポーツ（水中）	全学年	後	現代の日本社会において、子どもの発育発達段階における体験活動の重要性や多様な生涯スポーツ種目へのニーズが高まっています。それらの社会的ニーズに対応するため、まずは自分自身が海洋および水辺活動を楽しむ安全に楽しめるように、基礎的知識と技術と身につけることを目標として「到達目標」に記載内容を実施します。	○海洋スポーツを安全に実施、指導する際のスキルを身につける。○野外スポーツに必要な天候による実施(活動)の是非に関する判断能力を身につける。○NAUIオープンウォーターダイバー資格取得レベルの知識と技術を修得する。	◎	◎	○
スポーツ実技科目	スノースポーツ	全学年	後	スノースポーツの代表であるスキーとスノーボードを取り上げ、基礎技術を学び中級斜面を爽快かつ安全に滑走する技能を修得する。さらに、差別活動や集団生活を通して社会的スキルを身につけることも目指す。担当者(得居・伊藤)	①スキー・スノーボードの基礎技能を修得し、中級斜面を安全に滑走することが出来る。②スキー・スノーボードのターンの仕組みと基礎技術について説明出来る。③安全な滑走のためのゲレンデにおけるルール・マナーについて説明出来る。	◎	○	○